



# 鶴岡市立荘内病院 医学雑誌

第27巻/2016

The Medical Journal of Tsuruoka Municipal Shonai Hospital

巻頭の言葉

院 長 三 科 武

## 特集 当院のリハビリ医療の現況報告 ..... 1

荘内病院リハビリテーションセンターの紹介	理学療法士	本 間	司
心大血管のリハビリテーション	理学療法士	渡 部	美 穂
脳血管等リハビリテーション	理学療法士	池 田	浩 徳
運動器リハビリテーション	理学療法士	瀬 尾	章 央
呼吸リハビリテーション	理学療法士	齋 藤	加 恵
ハンドセラピーについて	作業療法士	伊 藤	愛
がんのリハビリテーションについて	理学療法士	小 林	拓
摂食機能療法について	言語聴覚士	五十嵐	知 依

## 原著・研究・症例

巨大な食道癌肉腫の1剖検例 ..... 27	病 理 科	深瀬 眞之
軟骨化生を伴う乳癌の稀な一例 ..... 34	病 理 科	石栗永里奈
入院患者の持参薬に対する薬剤師の関わり ..... 41	薬 局	國分 広志
挿管患者の鎮痛に対する看護師の意識調査 —鎮痛スケールBPSを導入して— ..... 43	看 護 部	佐藤 慎吾
血液透析患者のシャント肢スキンケアの実態 —スキントラブル予防のために— ..... 49	看 護 部	吉田 里枝
2015年 学術活動業績 ..... 55		

荘内病院医学雑誌第27巻は当院ホームページより全文をご覧いただけます。

URL [www.shonai-hos.jp](http://www.shonai-hos.jp)

# 2015年 學術活動業績



2015年学術活動業績

I 他誌掲載論文

がん患者の口腔機能管理を目的とした医科歯科連携の取り組み

鶴岡市立荘内病院

外科 鈴木 聡

山形県医師会会報 766 (6月号) : 3-15, 2015

鶴岡市立荘内病院

整形外科 庄司寛和、浦川貴朗、後藤真一、日向野行正

臨床整形外科 50 (11) : 1133-1137, 2015

「病院勤務医と医師会との懇談会」が開催されました

鶴岡地区医師会勤務委員会委員長

鶴岡市立荘内病院

外科 鈴木 聡

めでいかすとる 第280号 : 3, 2015

地域小児科センターの役割

鶴岡市立荘内病院

小児科 吉田 宏

山形県小児科医会会報 第66号: 60-61, 2015

気管支喘息発作の急増とエンテロウイルスD68型陽性－鶴岡市

鶴岡市立荘内病院

小児科 幾瀬 樹、丸山 馨、布施理子、坂井知倫、黒沢大樹、楡井 淳、齋藤なか、吉田 宏

IASR 36(12): 248-249, 2015

破骨細胞型退形成性腭管癌の1切除例

鶴岡市立荘内病院

外科 二瓶幸栄、島田哲也、坂本 薫、鈴木 聡、三科 武

小児外科 大滝雅博

新潟医学会雑誌 129 (9) : 539-544, 2015

山形県がん診療連携拠点病院歯科口腔外科における周術期口腔機能管理の現状

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

日本海総合病院 歯科口腔外科 柴田 肇

山形大学医学部 歯科口腔・形成外科学講座

飯野光喜

山形県立中央病院 歯科口腔外科 濱本直興

公立置賜総合病院 歯科口腔外科 小林武仁

山形市立病院済生館 歯科口腔外科 井上右子

鶴岡市立荘内病院 歯科口腔外科 塙 健志

山形県病医誌49(1): 1-5, 2015

小児 upside down stomach 型食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博

外科 二瓶幸栄、鈴木 聡、三科 武

小児外科 47 (1) : 33-37, 2015

Interval appendectomy 本邦での現状と問題点について

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博

外科 二瓶幸栄

日本外科感染症学会雑誌12 (1) : 39-44, 2015

褥瘡予防ラウンドにおける理学療法士の活動報告  
鶴岡市立荘内病院

リハビリテーションセンター

小林 拓、瀬尾章央、池田浩徳、渡部美穂

医療安全管理室 梅本貴子

全国自治体病院協議会雑誌 54(6) : 93-96, 2015

L5/S 椎間孔狭窄に対する後方除圧後に仙骨骨折を生じた1例

**病院緩和ケアチームによる住宅と医療福祉連携  
関係性の構築を前提としたシステムの活用**

鶴岡市立荘内病院

内 科 和泉典子

看護部 上林沙希子

NEOSYS (14) :13, September 2015

## Ⅱ 学 会 発 表

〔外 科〕

大腸癌の切除不能肝転移に対する肝動注療法の有用性

鶴岡市立荘内病院

外 科 鈴木 聡、二瓶幸栄、大滝雅博、  
坂本 薫、島田哲也、橋本喜文、  
阿部尚弘、城之前翼、三科 武

第115回日本外科学会

(2015年4月16日) 名古屋市

がん患者の口腔機能管理を目的とした医科歯科連携の取り組み

鶴岡市立荘内病院

外 科 鈴木 聡

第17回日本医療マネジメント学会

(2015年6月12日) 大阪市

OPTIMプロジェクトで地域診療所はどのように変化したか

鶴岡市立荘内病院

外 科 鈴木 聡

内 科 和泉典子

看護部 上林沙希子、阿部美知子

鶴岡協立病院

高橋牧郎、高橋美香子、

瀬尾利加子

第20回日本緩和医療学会

(2015年6月19日) 横浜市

乳がんセンチネルリンパ節生検症例の検討

鶴岡市立荘内病院

外 科 鈴木 聡、坂本 薫、三科 武

看護部 竹内梨紗

第23回日本乳癌学会

(2015年7月2日) 東京

腹腔鏡下胆嚢摘出術を行った胆嚢捻転症の一例  
(研修医セッション)

鶴岡市立荘内病院

外 科 永井 佑、二瓶幸栄、城之前翼、  
齋藤敬太、八木 寛、坂本 薫、  
鈴木 聡

小児外科 大滝雅博

第77回日本臨床外科学会

(2015年11月26日) 福岡市

放線菌症による汎発性骨盤内腹膜炎の1例  
(研修医セッション)

鶴岡市立荘内病院

外 科 西見由梨花、鈴木 聡、二瓶幸栄、  
坂本 薫、八木 寛、齋藤敬太、  
城之前翼

小児外科 大滝雅博

第77回日本臨床外科学会

(2015年11月26日) 福岡市

がん患者の口腔機能管理を目的とした医科歯科地域連携の取り組み

鶴岡市立荘内病院 外 科 鈴木 聡

鶴岡市立荘内病院 消化器科 板垣 茂文

鶴岡市立荘内病院 歯科口腔外科 齋藤 大輔

鶴岡地区医師会 中村 秀幸

歯科家中新町クリニック 阿部 真裕

みどり町澤田歯科医院 澤田正佐子

第34回庄内医師集談会

(2015年11月29日) 鶴岡市

出血性十二指腸潰瘍に対して胃切除を施行した2例

鶴岡市立荘内病院

外 科 中橋健太、坂本 薫、山田沙季、  
齋藤敬太、八木 寛、大滝雅博、  
鈴木 聡、三科 武

第280回新潟外科集談会(日本臨床外科学会新潟支部会)

(2015年12月5日) 新潟市

〔小児外科〕

当科における Hirschsprung 病に対する腹腔鏡  
下手術の現状 ～Reduced port surgery への工  
夫～

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博、  
外科 二瓶幸栄、鈴木 聡、三科 武、  
城之前翼

第52回日本小児外科学会学術集会

(2015年5月28-30日) 神戸市

機能的端々吻合後を施行し、術後通過障害を起こ  
したapple peel型先天性小腸閉鎖の1例

鶴岡市立荘内病院

外科 阿部尚弘、城之前翼、二瓶幸栄、  
鈴木 聡、三科 武  
小児外科 大滝雅博

第52回日本小児外科学会学術集会

(2015年5月28-30日) 神戸市

臍窩正中切開法を用いた肥厚性幽門狭窄症手術

鶴岡市立荘内病院

外科 城之前翼、阿部尚弘、二瓶幸栄、  
鈴木 聡、三科 武  
小児外科 大滝雅博

第52回日本小児外科学会学術集会

(2015年5月28-30日) 神戸市

50円玉硬貨の長期遺残による食道潰瘍の一例

鶴岡市立荘内病院

小児外科 西見由梨花、大滝雅博  
外科 二瓶幸栄、鈴木 聡、三科 武、  
城之前翼

第52回日本小児外科学会学術集会

(2015年5月28-30日) 神戸市

小児食道逆流症症例に対する茯苓飲合半夏厚朴湯  
の使用経験

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博  
外科 城之前翼、二瓶幸栄、鈴木 聡、  
三科 武

第26回日本小児外科QOL研究会

(2015年10月17日) 甲州市

中間位鎖肛仙骨会陰部手術における鏡視下システ  
ムの使用経験

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博  
外科 城之前翼

第72回直腸肛門奇形研究会

(2015年10月29-30日) 熊本市

地方一般病院での小児外科専門医の現状と今後の  
展望 ～一般外科チーム医療における小児外科の  
共存について～ (パネル)

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博  
外科 鈴木 聡、二瓶幸栄、坂本 薫、  
八木 寛、齋藤敬太

第77回日本臨床外科学会

(2015年11月26日) 福岡市

パネルディスカッション

外科学の中での小児外科 —現状と将来展望—

地方一般病院での小児外科専門医の現状と今後の  
展望 ～一般外科チーム医療における小児外科医  
の共存について～

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博  
外科 鈴木 聡、二瓶幸栄、坂本 薫、  
八木 寛、齋藤敬太

第77回日本臨床外科学会総会

(2015年11月26-28日) 福岡市

小児外科手術におけるVITOMシステムの使用経験

鶴岡市立荘内病院

小児外科 大滝雅博  
外科 鈴木 聡、坂本 薫、八木 寛、  
齋藤敬太、山田沙季、中橋健太、  
三科 武

第280回新潟外科集談会(日本臨床外科学会新潟支部会)

(2015年12月5日) 新潟市

〔呼吸器外科〕

当院での3ポートVATS右上葉区域切除術例の検討

鶴岡市立荘内病院  
呼吸器外科 正岡俊明  
第32回日本呼吸器外科学会総会  
(2015年5月15日) 高松市

増大速度が速く肺癌疑いで切除され、Ciliated muconodular papillary tumor (CMPT) を疑った1例

鶴岡市立荘内病院  
呼吸器外科 正岡俊明  
第56回日本肺癌学会総会  
(2015年11月27日) 横浜市

閉塞性肺炎像を呈した気管支内過誤腫に対して胸腔鏡下区域切除術を行った2例

鶴岡市立荘内病院  
呼吸器外科 正岡俊明、石原 良  
呼吸器内科 河上英則、星野芳史  
第41回呼吸器内視鏡学会東北支部会  
(2015年8月1日) 福島市

両側多発GGOを呈した同時多発肺腺癌の1例

鶴岡市立荘内病院  
呼吸器外科 櫻井裕基、正岡俊明、石原 良  
呼吸器科 河上英則、星野芳史  
放射線科 齊藤聖宏  
第47回山形肺癌懇話会  
(2015年7月4日) 山形市

呼吸器内視鏡手術における当院での工夫  
～二人で行う3ポートVATS～

鶴岡市立荘内病院  
呼吸器外科 正岡俊明、松延武彦、石原 良  
診療部 石川陽市(ME)、落合一美(RT)  
佐藤克之(RT)  
看護部 坂尾麻衣、加賀山さやか  
第19回山形内視鏡外科研究会  
(2015年8月29日) 山形市

当科における胸腔鏡手術のpit fall症例

鶴岡市立荘内病院  
呼吸器外科 正岡俊明  
第10回山形呼吸器外科研究会  
(2015年10月24日) 山形市

〔整形外科〕

橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定後の手指拘縮

鶴岡市立荘内病院  
整形外科 後藤真一、秦 命賢  
第58回日本手外科学会  
(2015年4月16日) 東京

若年者骨性マレット指に対する石黒変法施行後の遺残転位

鶴岡市立荘内病院  
整形外科 後藤真一、日向野行正、浦川貴朗、  
秦 命賢、穂苅 翔、渋谷洋平、  
高野岳人、平野優樹  
第39回庄内整形外科医会  
(2015年6月27日) 鶴岡市

小児の化膿性肩関節炎の一例

鶴岡市立荘内病院  
整形外科 平野優樹、日向野行正、後藤真一、  
浦川貴朗、秦 命賢、穂苅 翔、  
渋谷洋平、高野岳人  
第112回東北整形災害外科学会  
(2015年7月17日) 福島市

嚢胞性神経鞘腫の1例

鶴岡市立荘内病院  
整形外科 浦川貴朗  
第40回庄内整形外科医会 (2015年10月24日) 三川町

〔小児科〕

ロタウイルスワクチン導入前後の同ウイルス感染症の動向

鶴岡市立荘内病院  
小児科 堀口 祥



庄内地区小児ワクチン学術講演会

(2015年3月12日) 鶴岡市

H.pylori感染による鉄欠乏性貧血を発症した思春期女子の1例

鶴岡市立荘内病院

小児科 坂井知倫、堀口 祥、新井 啓、  
佐藤紘一、佐藤聖子、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

第219回日本小児科学会新潟地方会

(2015年5月9日) 新潟市

Ehlers-Danlos症候群の一例

鶴岡市立荘内病院

小児科 新井 啓、坂井知倫、堀口 祥、  
佐藤紘一、佐藤聖子、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

第219回日本小児科学会新潟地方会

(2015年5月9日) 新潟市

過去10年間に当院ICUへ入院した小児例の検討

鶴岡市立荘内病院

小児科 黒沢大樹、幾瀬 樹、丸山 馨、  
坂井知倫、布施理子、楡井 淳、  
齋藤なか、吉田 宏

第99回日本小児科学会山形地方会

(2015年5月24日) 山形市

過去15年間に当科へ入院した気管支喘息および喘息性気管支炎患者の動向

鶴岡市立荘内病院

小児科 坂井知倫、佐藤紘一、幾瀬 樹、  
丸山 馨、布施理子、黒沢大樹、  
楡井 淳、齋藤なか、吉田 宏、  
伊藤末志

第99回日本小児科学会山形地方会

(2015年5月24日) 山形市

食事療法に難渋している糖原病 la 型の1例

鶴岡市立荘内病院

小児科 坂井知倫

第21回山形小児内分泌・代謝研究会

(2015年6月26日) 山形市

ヒトメタニューモウイルス肺炎に合併した細菌性肺炎の1例

鶴岡市立荘内病院

小児科 幾瀬 樹

第4回新潟小児臨床感染症勉強会

(2015年6月26日) 新潟市

新生児遷延性肺高血圧症 (PPHN) から脱却した安定期に、カテコラミン高値による高血圧を認め、降圧剤投与を必要とした重症新生児仮死・脳内出血の1例

鶴岡市立荘内病院

小児科 丸山 馨、幾瀬 樹、布施理子、  
坂井知倫、黒沢大樹、楡井 淳、  
齋藤なか、吉田 宏

第27回 新潟周産母子研究会

(2015年7月25日) 新潟市

アデノウイルス感染に合併した1型鑄型気管支炎の一例

鶴岡市立荘内病院

小児科 黒沢大樹、幾瀬 樹、丸山 馨、  
坂井知倫、布施理子、楡井 淳、  
齋藤なか、吉田 宏

第67回北日本小児科学会

(2015年9月5日) 福島市

脳低温療法を始めます

鶴岡市立荘内病院

小児科 楡井 淳、吉田 宏、幾瀬 樹、  
丸山 馨、坂井知倫、布施理子、  
黒沢大樹、齋藤なか

第32回庄内周産期懇話会

(2015年10月31日) 酒田市

腸管出血性大腸菌感染症集団発生と溶血性尿毒症症候群に至った一例

鶴岡市立荘内病院

小児科 丸山 馨、幾瀬 樹、坂井知倫、  
布施理子、黒沢大樹、楡井 淳、  
齋藤なか、吉田 宏

第101回日本小児科学会山形地方会

(2015年12月6日) 山形市

鶴岡地区におけるエンテロウイルスD68と気管支  
喘息発作の流行

鶴岡市立荘内病院

小児科 幾瀬 樹、丸山 馨、布施理子、  
坂井知倫、黒沢大樹、楡井 淳、  
齋藤なか、吉田 宏

山形県衛生研究所 水田克巳

第221回日本小児科学会新潟地方会

(2015年12月12日) 新潟市

起立性高血圧の15歳男児例

鶴岡市立荘内病院

小児科 坂井知倫、幾瀬 樹、丸山 馨、  
布施理子、黒沢大樹、楡井 淳、  
齋藤なか、吉田 宏

第221回日本小児科学会新潟地方会

(2015年12月12日) 新潟市

〔歯科口腔外科〕

耳前部に発生した節性濾胞辺縁帯リンパ腫の1例

鶴岡市立荘内病院

歯科口腔外科 武石越郎、塙健志、本間克彦  
福島県立医科大学

歯科口腔外科 長谷川博

新潟大学大学院医歯学総合研究科

顎顔面放射線学分野 林 孝文

第60回日本口腔外科学会総会

(2015年10月16-18日) 名古屋

〔薬 局〕

褥瘡回診記録の統計から見える現状と課題

鶴岡市立荘内病院

薬 局 富樫敦子、國分広志  
形成外科 工藤勝秀、  
看護部 梅木貴子、百瀬 幸、佐藤 南

第17回日本褥瘡学会学術集会

(2015年8月28-29日) 仙台市

山形県内病院の血糖測定器・穿刺器に関するアン  
ケート調査と課題

庄内薬剤師糖尿病研究会

鶴岡市立荘内病院 薬 局 鎌田敬志

庄内薬剤師糖尿病研究会

庄内余目病院 薬 局 鈴木悠太

庄内薬剤師糖尿病研究会

日本海総合病院 薬剤部 成田康之

第4回くすりと糖尿病学会学術集会

(2015年9月26-27日) 新潟市

庄内糖尿病オールサポートネットに求められる役  
割

鶴岡市立荘内病院

薬 局 鎌田敬志

看護部 宅井さやか

日本糖尿病年次集会東北分会

(2015年11月7日) 仙台市

ダプトマイシン投与中にダプトマイシン耐性を獲  
得したMRSA菌血症の1例

鶴岡市立荘内病院

薬 局 草島宏平、大井直子

看護部 若松由紀子

中央検査科 安西冬虹

第25回日本医療薬学会年会

(2015年11月21-23日) 横浜市

NICU、GCUにおける薬剤師業務

鶴岡市立荘内病院

薬 局 田中 庸、富樫敦子、阿部和人、

鎌田敬志、庄司知摩、佐藤 導

第25回日本医療薬学会年会

(2015年11月21-23日) 横浜市

ワンタッチウルトラビューとワンタッチペンへ交  
換3年後の血液浄化療法センター通院患者へのア  
ンケート調査

鶴岡市立荘内病院

葉 局 鎌田敬志、佐藤拓也、石川大介、  
田中大輔、阿部和人、佐藤 導

第25回日本医療薬学会年会

(2015年11月21-23日) 横浜市

心肺停止蘇生後の低体温療法管理における病棟薬剤業務の視点での現状

鶴岡市立荘内病院

葉 局 田中大輔、草島宏平、佐藤拓也、  
石川大介、阿部和人、鎌田敬志、  
佐藤 導

第25回日本医療薬学会年会

(2015年11月21-23日) 横浜市

[リハビリテーションセンター]

維持期連携パス導入後の脳卒中地域医療の現状

鶴岡市立荘内病院

リハビリテーションセンター 渡部美穂

第16回日本クリニカルパス学会学術集会

(2015年11月13-14日) 浦安市

当院NST活動の現状と今後の課題

鶴岡市立荘内病院

リハビリテーションセンター 五十嵐知依

第13回山形NST研究会学術セミナー

(2015年12月12日) 山形市

[看護部]

清拭タオルのセレウス菌汚染の実態と血流感染

鶴岡市立荘内病院

看護部 若松由紀子、栗田 香、土田宏美  
外科 鈴木 聡

第30回日本環境感染学会

(2015年2月20日) 神戸市

脳低体温療法プロトコル導入に向けた試み-A病院ICUスタッフがプロトコルに求める内容の抽出-

鶴岡市立荘内病院 看護部 三浦良哉

日本集中治療医学会東北地方会

(2015年5月23日) 福島市

実践報告

糖尿病療養支援を行う庄内地区スタッフの連携-  
荘内糖尿病オールサポートネット立ち上げ経過の  
報告-

鶴岡市立荘内病院 看護部 宅井さやか

ビデオを用いた速乾性擦式消毒剤の使用実態調査  
と課題-「WHO手指消毒衛生の5つのタイミング」  
と比較して-

鶴岡市立荘内病院 看護部 佐藤 靖子

栄養アセスメントのスキルアップを目指して  
-低栄養チェック表の運用への取り組み-

鶴岡市立荘内病院 看護部 伊藤 和香

継続的危険予知トレーニング活動の導入-手術室  
看護師の危険予知に対する意識向上を目指して-

鶴岡市立荘内病院 看護部 阿部 和佳

日本医療マネジメント学会

第12回山形県支部学術集会 (2015年7月11日) 山形市

挿管患者の鎮痛に対する看護師の意識調査-鎮痛  
スケールBPSを導入して-

鶴岡市立荘内病院 看護部 佐藤慎吾

第37回日本呼吸療法医学会学術集会

(2015年7月18日) 京都市

床ずれ市民公開講座後の評価と今後の課題

鶴岡市立荘内病院 看護部 佐藤 南

第17回日本褥瘡学会学術集会

(2015年8月28-29日) 仙台市

リフレクションサイクルを用いた事例の考案

鶴岡市立荘内病院 看護部 宅井さやか

第20回日本糖尿病教育・看護学会学術集会

(2015年9月21-22日) 高松市

在宅医療支援活動について

鶴岡市立荘内病院 看護部 富樫 清

平成27年度 病院看護師だからできる在宅支援研修

(2015年9月26日) 山形市

**看護師による難治性潰瘍に対するサポートチーム  
立ち上げの経過報告**

鶴岡市立荘内病院 医療安全管理室 梅本 貴子  
日本下肢救済・足病学会東北地方会

(2015年10月3日) 山形市

**退院時母乳栄養率向上に向けた母乳育児支援の取  
り組み**

鶴岡市立荘内病院 看護部 看護係長 和田 美枝  
第25回日本新生児看護学会学術集会

(2015年10月24日-25日) 盛岡市

**庄内糖尿病オールサポートネットに求められる役割**

鶴岡市立荘内病院 看護部 宅井 さやか  
日本糖尿病学会第53回東北地方会

(2015年11月7日) 仙台市

**緊急入院の小児に付きそう家族が看護師に望む援  
助-付きそい家族への満足度調査を行って-**

鶴岡市立荘内病院 看護部 梅木 香奈子

**療法選択教室における情報提供資料の課題の検討**

鶴岡市立荘内病院 看護部 小南 志保  
山形県看護研究学会

(2015年11月12日) 山形市

## Ⅲ 院 外 講 演

[外 科]

地域で支えるがん緩和ケア『庄内プロジェクト』  
の挑戦

鶴岡市立荘内病院

外 科 鈴木 聡

第10回さいたま浦和地区緩和医療研究会

(2015年2月27日)

がん患者のからだと心のケア—緩和ケアを考える—

鶴岡市立荘内病院 外 科 鈴木 聡

新潟青陵大学特別講義 看護学科、福祉心理学科4年  
生対象

(2015年5月14日)

患者の周術期ならびに化学・放射線療法を行う際  
の医科歯科連携の重要性について

鶴岡市立荘内病院 外 科 鈴木 聡

平成27年度山形県在宅訪問診療歯科医師等養成講習会

(2015年5月24日)

地域で支えるがん緩和ケア『庄内プロジェクト』  
のあゆみ

鶴岡市立荘内病院

外 科 鈴木 聡

第4回由利本荘緩和医療研究会

(2015年9月29日) 由利本荘市

緩和ケア「庄内プロジェクト」について

鶴岡市立荘内病院 外 科

緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川センター長

鈴木 聡

第9回緩和ケア市民公開講座

(2015年11月28日)

[呼吸器外科]

胸腔鏡手術～当院での現況報告～

鶴岡市立荘内病院 呼吸器外科 正岡俊明

地域医療連携推進協議会・鶴岡地区医師会・登録医・  
荘内病院 合同懇談会

(2015年12月15日)

[小 児 科]

小児救急疾患の取り扱い方について

鶴岡市立荘内病院 小児科 佐藤絃一

平成26年度鶴岡地区医師会小児救急講習会

(2015年1月28日)

小児救急疾患への対応

鶴岡市立荘内病院 小児科 齋藤なか

平成27年度小児救急医療講習会 in 鶴岡幼稚園

(2015年6月20日)

小児救急疾患への対応

鶴岡市立荘内病院 小児科 吉田 宏

平成27年度小児救急医療講習会 in 常念寺保育園

(2015年6月25日)

小児救急疾患への対応

鶴岡市立荘内病院 小児科 幾瀬 樹

平成27年度小児救急医療講習会 in 温海保育園

(2015年7月8日)

クラゲ刺傷について—カギノテクラゲを中心に—

鶴岡市立荘内病院 小児科 吉田 宏

平成27年度クラゲマイスター養成講座

(2015年6月27日)

新生児蘇生法「専門」(A)コース講習会講義

鶴岡市立荘内病院 小児科 吉田 宏

平成27年度第1回新生児蘇生法「専門」(A)コース講  
習会

(2015年6月28日)

### 子どもの急な病気への対応

鶴岡市立荘内病院 小児科 吉田 宏  
平成27年度第2回「つるおか健康塾」  
(2015年7月18日)

### 初期研修医に伝えたいこと

鶴岡市立荘内病院 小児科 布施理子  
上越・糸魚川コンソーシアム  
(2015年8月1日)

### 子どもの発育と病気について

(母乳育児, 早寝早起き, メディアとのつきあい  
方含め)

鶴岡市立荘内病院 小児科 吉田 宏  
平成27年度鶴岡市子育てサポーター基礎講習  
(2015年9月4日)

### 小児救急疾患への対応

鶴岡市立荘内病院 小児科 齋藤なか  
平成27年度小児救急医療講習会 in 出羽庄内国際村  
(2015年9月24日)

### ネット依存とからだの関係

鶴岡市立荘内病院 小児科 吉田 宏  
すこやかネット出前子育て懇談会 in 鶴岡第一中学校  
(2015年11月26日)

### 小児疾患と救急対応

鶴岡市立荘内病院 小児科 布施理子  
平成27年度山形県消防学校救急科  
(2015年11月13日)

### 新生児疾患と救急対応

鶴岡市立荘内病院 小児科 吉田 宏  
平成27年度山形県消防学校救急科  
(2015年12月17日)

### 〔薬 局〕

#### 薬薬連携推進のために必要な病棟薬剤師の役割

鶴岡市立荘内病院 薬 局 阿部和人  
平成27年度 鶴岡地区三師会  
(2015年2月27日)

#### ワンタッチウルトラビューワンタッチペンへ交換 3年後の血液浄化療法センター通院患者へのアン ケート調査

鶴岡市立荘内病院 薬 局 鎌田敬志  
第6回庄内薬剤師糖尿病講演会  
(2015年6月20日)

#### 褥瘡の軟膏処置

鶴岡市立荘内病院 薬 局 富樫敦子  
第2回床ずれ(褥瘡)の市民公開講座  
(2015年9月3日)

### 〔リハビリテーションセンター〕

#### 健康のための運動

鶴岡市立荘内病院  
リハビリテーションセンター 小林 拓  
第4回ほっと広場  
(2015年10月17日)

#### 生活リハビリテーション ポジショニング

鶴岡市立荘内病院  
リハビリテーションセンター 佐太木淳一  
桃寿荘職場内研修  
(2015年10月21日)

#### どこでもできる簡単な運動

鶴岡市立荘内病院  
リハビリテーションセンター 佐太木淳一  
天腎祭  
(2015年11月1日)

### 〔栄 養 科〕

#### うつと食事

鶴岡市立荘内病院 栄養科 富樫博子  
つるおか健康塾  
(2015年1月17日)

### 褥瘡に関する栄養について

鶴岡市立荘内病院 栄養科 澤井寛子  
褥瘡市民公開講座

(2015年9月5日)

### がんと栄養について

鶴岡市立荘内病院 栄養科 富樫博子  
つるおか健康塾

(2015年9月19日)

### 楽しく学べる食事療法

鶴岡市立荘内病院 栄養科 澤井寛子  
糖尿病のつどい

(2015年10月18日)

### 褥瘡予防と管理：栄養

鶴岡市立荘内病院 栄養科 澤井寛子  
日本褥瘡学会 山形県在宅褥瘡セミナー

(2015年11月7日)

### 〔看護部〕

### 乳がんリハビリテーション

鶴岡市立荘内病院 看護部 竹内梨紗  
第19回庄内乳がん懇話会

(2015年6月26日)

### 当院における糖尿病ケアの実践と今後の展望

鶴岡市立荘内病院 看護部 宅井さやか  
第1回庄内糖尿病オールサポートネット研修会

(2015年7月4日)

### 外来治療中からスピリチュアルケアを行った1事例－2分野の認定看護師の関わりから－

鶴岡市立荘内病院 看護部 佐々木孔美  
第10回庄内緩和医療研究会

(2015年8月22日)

### 当院における終末期患者のペット面会の現状と今後の課題

鶴岡市立荘内病院 看護部 渡部美佳  
第25回山形県緩和医療研究会

(2015年9月26日)

### グリーンケア

鶴岡市立荘内病院 看護部 上林沙希子  
出張緩和ケア研修会（特別養護老人ホーム温寿荘）

(2015年11月25日)

### パネルディスカッション 乳がん検診

鶴岡市立荘内病院 看護部 竹内梨紗  
外科 鈴木 聡

第9回緩和ケア市民公開講座

(2015年11月28日)

## IV 院内各種研修会

### 〔内 科〕

遺族の視点から見た臨終前後の望ましいケア～看取りのパンフレット「これからの過ごし方」に記載された内容を理解しよう

和泉典子

緩和ケア入門講座

(2015年6月4日)

遺族の視点から見た終末期の望ましいケア Part II

和泉典子

緩和ケア入門講座

(2015年7月2日)

がん疼痛治療におけるフェンタニル製剤

和泉典子

鶴岡地区緩和ケア学術講演会

(2015年9月5日)

### 〔呼吸器科〕

「敗血症について」  
概論～薬剤～視察とケアの視点

星野芳史

RST院内研修会

(2015年2月20日)

### 〔整形外科〕

5階病棟勉強会

角谷梨花

大腿骨近位部骨折

(2015年3月13日)

### 〔小児科〕

第90回荘内病院小児科病診連携研究会

日時：平成27年1月22日（木曜日）

内容：

1) 平成26年10月から同年12月までの紹介患者経過報告

坂井和倫

2) トピックス

a) 当院における15年間の気管支喘息、喘息性気管支炎による入院患者の動向（その2）

佐藤紘一

b) RAISE Studyのプロトコールに基づき治療を行った川崎病の1例

堀口 祥

c) H.pylori感染により鉄欠乏性貧血を発症した14歳女兒の1例

坂井知倫

d) 最近当科で経験した高インスリン血症の4例

新井 啓

<追加>最近の感染症流行状況

伊藤末志

3) 最近の抄読会から

庄司圭介

### 第91回荘内病院小児科病診連携研究会

日時：平成27年4月23日（木曜日）

内容：

1) 平成27年1月から3月までの紹介患者経過報告

坂井知倫

2) トピックス

a) 過去10年間に当院ICUへ入院した小児例の検討

黒沢大樹

b) MRSAにより化膿性肩関節炎をきたした女兒例

坂井知倫

c) スキンケア教育入院を始めました

吉田 宏

d) エピペン®を処方すること

三井病院 三井直弥

e) ADHDの診断と治療について

齋藤なか

3) 最近の抄読会から

楢井 淳



第92回荘内病院小児科病診連携研究会

日時：平成27年 7 月23日（木曜日）

内容：

- 1) 平成27年 4 月から 6 月までの紹介患者経過報告  
布施理子
- 2) トピックス
  - a) クラッシュアーモンドチョコレート誤嚥による  
気管支異物の一例  
黒沢大樹
  - b) 健診等から医療機関受診につなげられずに死亡  
した肺高血圧症例を通して  
坂井知倫
  - c) 腹部膨満を契機に先天性間葉性腎芽腫の診断に  
至った 1 例  
幾瀬 樹
  - d) 新生児遷延性肺高血圧症（PPHN）から脱却し  
た安定期に、カテコラミン高値による高血圧を認  
め、降圧剤投与を必要とした重症新生児仮死・脳  
内出血の 1 例  
丸山 馨

<追加> 最近のウイルス迅速検査の動向

- 3) 最近の抄読会から

第93回荘内病院小児科病診連携研究会

日時：平成27年10月22日（木曜日）

内容：

- 1) 平成27年 7 月から 9 月までの紹介患者経過報告  
黒沢大樹
- 2) トピックス
  - a) 腸管出血性大腸菌感染症の集団発生と溶血性尿  
毒症症候群に至った一例  
丸山 馨
  - b) EBウイルス関連血球貪食リンパ球組織球症よ  
り全身性EBウイルス陽性Tリンパ球増殖症小児  
型（WHO2008）が疑われた一例  
布施理子
  - c) 気管支喘息発作とエンテロウイルスD68の流行  
について  
幾瀬 樹

- d) 起立性高血圧症の15歳男児例

坂井知倫

- 3) 最近の抄読会から

吉田 宏

〔薬 局〕

「敗血症について」  
概論～薬剤～視察とケアの視点

田中大輔

R S T院内研修会

(2015年 2 月20日)

注意すべき薬剤等について

佐藤 導、鎌田敬志、富樫敦子

平成27年度看護部新採用者研修会

(2015年 4 月 9 日)

オピオイドの正しい使い方について

阿部和人

平成27年度第 2 回「キャンサーボード鶴岡」

(2015年 5 月19日)

薬局 抄読・勉強会

2015年 1 月21日

Influenza Vaccination of Pregnant Woman and  
Protection of Their Infants

(N Engl J Med 2014 ; 371 : 918-931)

富樫敦子

2015年 4 月 8 日

Treatment of Neonatal Sepsis with Intravenous  
Immune Globulin.

(N Engl J Med 2011 ; 365 : 1201-1211)

田中 庸

2015年 6 月24日

Adsorption of various antimicrobial agents to end  
otoxin removal polymyxin-B immobilized fiber  
(Toraymyxin®).

(Colloids Surf B Biointerfaces.2012 Feb 1;90:58-61)

田中大輔

2015年7月8日

**FOLFIRI plus cetuximab versus FOLFIRI plus bevacizumab as first-line treatment for patients with metastatic colorectal cancer (FIRE-3) : a randomised, open-label, phase 3 trial.**

(Lancet 2014 Sep ; 15(10):1065-1075)

石川大輔

「がん患者のリハビリについて」

内容：がん患者のリハビリテーションの概要

小林 拓

緩和ケア入門講座

(2015年5月21日)

2015年8月12日

**Idrucizumab for Dabigatran Reversal.**

(N Engl J Med 2015 ; 373 : 511-520)

佐藤拓也

糖尿病教室「雨の日でもできる効果的な運動療法」

佐太木淳一

(2015年6月12日)

〔栄 養 科〕

「うつと食事」

富樫博子

2015年9月9日

**Effect of nutritional status on transdermal fentanyl absorption in cancer patients.**

(Palliat Care Res 2012;7 (2) :395-402)

大井直子

第8回がんボード鶴岡

(2015年1月20日)

〔看 護 部〕

「敗血症について」

概論～薬剤～視察とケアの視点

三浦良哉

2015年10月14日

**Synergy of Daptomycin with Oxacillin and Other  $\beta$ -Lactams against Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus.**

(ANTIMICROBIAL AGENTS AND CHEMOTHERAPY, Aug. 2004,2871-2875)

草島宏平

RST院内研修会

(2015年2月20日)

2015年12月9日

**Night work and the risk of cancer among men.**

(American Journal of EPIDEMIOLOGY 2012 Nov 1;176 (9):751-759)

國分広志

〔リハビリテーションセンター〕

「移動と体位」

内容：看護部新採用者を対象に、起居移乗動作やベッド上のポジショニングについて、講義及び実技指導

小林 拓

看護部新採用者研修

(2015年4月22日)

〔看護部〕

平成27年度看護部研修会

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	新採用者研修	4月1日(水)	・病院施設見学
		4月2日(木)	・看護部教育計画と新採用者教育について 講師：看護係長 佐藤 郁 ・看護部長講話：看護部長 佐藤 さゆり ・講義：「勤務にあたってのオリエンテーション」 講師：看護副部長 鈴木 郁 ・講義：「看護師としての倫理とは」 講師：倫理委員長 看護主査 五十嵐 利恵
		4月6日(月)	・S-HIS 看護システムについて ・講義：「外来から入院までの流れ」 講師：看護副部長 佐藤 千鶴子 ・講義：「看護システム（記録）について」 講師：看護記録委員 看護主査 今野 香 ・講義：「看護診断・記録の実際について」 講師：看護記録委員会 川村 奈美子 松浦 直美 ・演習：「入院棟での電子カルテ操作練習」 フロア担当：入院棟記録推進・必要度委員 ・講義：「看護必要度について」 講師：看護記録委員会 川村 都志子 金野 かおり
		4月7日(火)	・講義：医療事故予防対策について 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順 ・講義：「医療機器の安全な取り扱い方」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		4月9日(木)	・講義：「当院の地域医療連携室について」 講師：地域医療連携室 看護主査 富樫 清 ・講義：「安全に輸血を行うために -当院の輸血手順-」 講師：輸血療法委員 看護主幹 佐藤 順 ・講義：「糖尿病治療の薬物療法」 講師：薬剤専門員 鎌田 敬志 ・講義：「安全な薬剤の取り扱いについて」 講師：主任薬剤師 富樫 敦子
		4月13日(月)	・講義：「医療従事者に必要な感染対策の基本」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子 感染リンクナース 五十嵐 芽美 佐藤 愛梨
		4月14日(火)	・採血・注射技術研修 講師：看護業務委員会（手順） ・講義：「注射の安全について」 講師：看護主任 竹内 智美 ・講義：「注射の手順と業務マニュアル」 講師：看護係長 渡部 幸 ・講義：「皮下注射・筋肉注射について」 講師：看護主任 成澤 恵美 ・講義：「採血・静脈注射について」 講師：看護主任 亀井 由佳 ・講義：「血糖測定について」 講師：看護主査 渡部 泰恵子

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修			・採血・皮下・筋肉・静脈注射の実技演習
		4月17日(金)	・講義・演習「スキンケア」 講師：皮膚・排泄認定看護師 看護係長 梅本 貴子 佐藤 南
		4月22日(水)	・講義：「食事介助・マウスケア・摂食・嚥下について」 講師：NST委員会 NST専従看護師 看護係長 井上 裕子 リハビリST 五十嵐 知依 歯科口腔衛生士 石垣 佑美 ・講義・実技演習：「導尿の仕方の看護援助」 講師：教育委員会 看護係長 加藤 恭子 ・講義：「安全な移動と体位」 講師：PT 小林 拓 本間 司 瀬尾 章央 佐太木 淳一 森 和浩 佐藤 麻人
		6月15日(月)	・講義：「メンタルヘルスケアについて」 講師：臨床心理士 柏倉 貢 ・演習：「今の自分を振り返り、表現してみませんか」 講師：教育委員 看護係長 加藤 恭子 ・グループワーク『自分を認めて、明日からどうしたらよいか』 ・講義・演習：「胃瘻・腸瘻について」 講師：NST委員会 NST専従看護師 看護係長 井上 裕子・富樫 悠奈 ・講義・演習：「胃管カテーテル挿入の実際」 講師：NST委員会 NST専従看護師 看護係長 井上 裕子・富樫 悠奈
		7月29日(水)	・体位変換・除圧・皮膚観察 講師：皮膚・排泄認定看護師 看護係長 梅本 貴子 佐藤 南
		9月11日(金)	・講義：「フィジカルアセスメント」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		6月25日(木)	出張 新人研修Ⅰ 社会人としての第一歩
		9月3日(木)	出張 新人研修Ⅱ 救急看護 こんな時どうする！急変時の対応
		10月23日(金)	出張 新人研修Ⅲ 医療安全 安全な看護を届けよう
		11月17日(火)	出張 新人研修Ⅳ ファイナル キャリアアップへの第一歩
		9月24日(木)	・2年目ナースからのメッセージ：8階東入院棟 前田 英里佳 7階西入院棟 藤原 真央 ・グループワーク「明日からの看護実践にどう活かしていくか」
		10月22日(木)	・講義：「看護ケアに活かすための感染予防対策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		11月12日(木)	・講義：「退院調整について」 講師：地域医療連携室 看護主査 富樫 清 ・講義：「医療従事者に必要な安全対策の基本」 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順
		平成28年 2月9日(火)	1年の振り返り研修 ・レポート発表 『担当患者との関わりからの学んだこと、今後の課題』 ・先輩ナースからのメッセージ 3年目ナース：6階西入院棟 斎藤 静香 中堅ナース：7階西入院棟 成澤 亜未 リーダーナースⅠ：5階西入院棟 風間 千沙子 リーダーナースⅡ：4階東入院棟 庄司 敦子 ・グループワーク『2年目ナースとしての取り組み』

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	既卒新採用者	平成28年 2月5日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の飛び級制度についての説明</li> <li>・フリートーク『今年度受講した研修についての意見交換』</li> </ul>
	新採指導者研修	4月13日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション 新採用者・2年目研修内容・チェックリストの説明 既卒者の研修についてオリエンテーション 講師：看護係長 佐藤 郁</li> <li>・講義：「成人の学習に対する基礎知識」 講師：臨床指導委員会 看護主任 阿部 裕子</li> <li>・新採用者との企画について</li> </ul>
		5月29日(金)	出張：新人育成（プリセプター）－ひとりで悩まない新人教育－
		6月5日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習 「新採用者が起こしやすいヒヤリハットについて」 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順</li> </ul>
		7月14日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育担当者企画の研修1G～現場の指導に活かせる研修～ 講義：「指導者を支援するための具体的な行動」</li> <li>・3ヶ月の振り返り</li> <li>・事例を通してのグループワーク ～ファシリテーター 教育担当係長 7名～</li> </ul>
		10月16日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育担当者企画の研修2G～6ヶ月を振り返り今後の指導について考える～</li> <li>・グループワーク 「指導する際に自部署で工夫していることや、オリジナルで実践していること」 ～ファシリテーター 教育担当係長 7名～</li> <li>・講義：「みんなで新人を育てよう」 実演・演習「指導時のコミュニケーション方法」</li> </ul>
		平成28年 2月19日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年の振り返り研修 成果発表会 『指導者としての自己の振り返り』</li> <li>・グループワーク 『1年間を振り返り、部署における新人看護師の教育について考える』</li> </ul>
	教育担当者研修	4月7日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「職場における教育担当者としての役割」 講師：看護係長 佐藤 郁</li> <li>・講義：「教育担当者の役割りの実際について昨年の活動報告報告」 講師：看護主査 伊藤 淑子</li> </ul>
		6月24日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク 『指導者を支援するための具体的な企画について』企画研修準備1G</li> </ul>
		7月14日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者を支援するための研修実践1G 新採指導者へ 講義：「指導者を支援するための具体的な行動」</li> <li>・3ヶ月の振り返り</li> <li>・事例を通してのグループワーク ～ファシリテーター 教育担当係長 7名～</li> </ul>
		7月23日(木) 7月24日(金)	出張 研修責任者・教育担当者研修～みんなで新人を育てよう～
		9月28日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク 『指導者を支援するための具体的な企画について』企画研修準備2G</li> </ul>
		10月16日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者を支援するための研修実践2G 新人指導者へ 「6ヶ月を振り返り今後の指導について考える」</li> <li>・自己評価表のデーターからみた6ヶ月の振り返り結果報告</li> </ul>

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修			<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク「結果からの感想・後期の課題」 ～ファシリテーター 教育担当係長 7名～</li> <li>講義「みんなで新人を育てよう」 実演・演習「指導時のコミュニケーション方法」</li> </ul>
		平成28年 2月19日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク 『教育担当者としての1年を振り返って－企画研修を実践して－』</li> </ul>
		平成28年 3月29日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画(新採用者・2年目ナース・指導者)の説明 担当:教育委員</li> </ul>
	2年目ナース研修	5月20日(水) 5月21日(木)	出張 看護研究の実践(第1回)
		10月29日(木) 10月30日(金)	出張 看護研究の実践(第2回)
		4月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年目ナース研修年間計画についての説明 講師:教育委員 看護主任 丸山 リカ</li> <li>講義:「2年目ナースの役割と心得・メンバーシップとは」 講師:教育委員 看護係長 成澤 知美</li> <li>グループワーク『2年目ナースとして求められること』</li> </ul>
		7月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義:「2年目の医療安全について」 講師:NICU・GCU 看護係長 大瀧 志保</li> <li>講義:「フィジカルアセスメント」 講師:集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉</li> </ul>
		10月28日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義:「フィッシュ!哲学」 講師:集中治療センター 看護係長 斎藤 真紀</li> <li>講義:「アサーティブコミュニケーション」 講師:4階東入院棟 看護主査 齋藤 恭子</li> <li>ナラティブ「心に残った看護体験を書いてみよう」</li> </ul>
		平成28年 2月4日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践レポート発表「後輩育成に活かす自分の役割」</li> <li>3年目へ向けての決意表明・発表</li> </ul>
		3年目ナース研修	4月16日(木)
	7月24日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義:「メンバーシップ、リーダーシップとは」 講師:教育委員会 看護主任 丸山 リカ</li> <li>講義:「問題解決能力について」 講師:教育委員会 看護係長 成澤 知美</li> <li>実践:カテゴリー化 グループワーク「チーム活動で悩んでいることを解決していくためには」</li> </ul>	
	9月10日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義:「医療安全は危険予測から」 講師:GCU 看護係長 大瀧 志保</li> <li>事例研究について 担当:教育委員 看護係長 成澤 知美・看護主任 丸山 リカ</li> </ul>	
	11月18日(水)	出張 認知症高齢者の理解と看護－基礎編－	
	平成28年 1月18日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例研究発表</li> <li>グループワーク「事例研究を通し、より良い看護実践にむけた今後の課題」</li> </ul>	
役割研修	中堅ナース研修	4月20日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中堅ナース研修オリエンテーション 講師:教育委員会 看護係長 佐藤 登志江</li> </ul>
		6月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義:「医療安全対策について－事例を分析してみよう－」 講師:看護係長 船見 美和子</li> </ul>

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
役 割 研 修			ファシリテーター：医療安全管理室 看護係長 牧 順
		9月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「荘内病院のチーム医療体制」 講師：統括看護主幹 丸山 邦</li> <li>・講義：「退院調整について」 講師：地域医療連携室 看護係長 梶谷 まゆみ</li> </ul>
		10月9日(金)	出張 中堅看護師研修－自己の看護を振り返り明日への看護につなげよう
		11月4日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「成人教育に必要な基礎知識」 講師：臨床指導委員会 伊藤 琴</li> <li>・グループワーク「後輩を育てるためにできること」</li> </ul>
		平成28年 1月26日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート発表「チーム医療の一員としての自部署における自分の役割」</li> <li>・グループワーク「これからの自己の役割」</li> </ul>
	リーダーナース研修Ⅰ	4月20日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーナースⅠ研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護係長 佐藤 登志江</li> <li>・看護研究オリエンテーション 看護研究要項より 「スケジュールと提出物」 講師：看護研究委員 看護主任 五十嵐 加奈子</li> <li>・「看護研究要項の活用」 講師：看護研究委員 看護主任 伊藤 智子</li> <li>・「質問・相談の手順」 講師：看護研究委員 看護係長 若松 順子</li> <li>・「研究費用・査読依頼・看護研究における倫理」 講師：看護研究委員長 看護主査 押井 あけみ</li> <li>・「研究計画書について」 講師：看護研究委員 看護主任 石井 真由美</li> <li>・「調査書の依頼について」 講師：看護研究委員 看護係長 金子 弘美</li> <li>・「データ分析とデータ加工」 講師：看護研究委員 看護主任 齋藤 美紀</li> </ul>
		7月2日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「看護管理とリーダーシップ」 講義：看護部長 佐藤 さゆり</li> </ul>
		7月7日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「荘内病院の現状と今後の展望」 講師：事務部長 加賀山 誠</li> </ul>
		9月14日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「退院調整について」 講師：地域医療連携室 看護係長 梶谷 まゆみ</li> </ul>
		12月18日(金)	・看護研究発表
		平成28年 1月22日(金)	・グループワーク『看護研究を通して学んだこと、今後の自己の役割』
	リーダーナース研修Ⅱ	4月20日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーナースⅡ研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護係長 佐藤 登志江</li> </ul>
		6月9日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「職場で活かす業務管理ポイント」 講師：看護副部長 鈴木 郁</li> </ul>
		6月29日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「医療安全対策について 一事例を分析してみよう」 講師：4階東入院棟 看護係長 金子 弘美 ファシリテーター：医療安全管理室 看護係長 牧 順 看護係長 大瀧 志保・看護係長 船見 美和子</li> </ul>
		10月26日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「クレーム対応について」 講師：統括看護主幹 佐藤 喜恵</li> </ul>

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
		平成28年 1月23日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年の成果発表(パワーポイントでプレゼンテーション) 「各自の成果と課題」</li> <li>・発表『研修を通して学んだこと』</li> </ul>
全体 研 修	看護研究	11月20日(金)	部署の看護研究発表 1回目
		11月27日(金)	部署の看護研究発表 2回目
	看護学会報告	12月4日(金)	院外投稿看護学会発表 研究発表会
専 門 研 修	専門分野研修	5月22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジカルアセスメントーベーシックコースー第1回目 「呼吸・循環」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉</li> </ul>
		6月15日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジカルアセスメントーベーシックコースー 第2回目 「中枢神経・腹部」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉</li> </ul>
		6月17日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚・排泄ケアーベーシックコースー第1回 「創傷ケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子</li> </ul>
		6月19日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学療法看護ーベーシックコースー第1回 「抗がん剤の安全な取り扱い方法と投与管理」 講師：がん化学療法看護認定看護師 看護主任 佐々木 孔美</li> </ul>
		6月22日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防ーベーシックコースー第1回 「感染予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子</li> </ul>
		6月23日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケアーベーシックコースー第1回 「概論・気持ちの辛さ」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 阿部 美知子</li> </ul>
		7月3日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学療法看護ーベーシックコースー第2回 「血管外漏出のリスクアセスメントと対処方法」 講師：がん化学療法看護認定看護師 看護主任 佐々木 孔美</li> </ul>
		7月6日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚・排泄ケアーベーシックコースー第2回 「排泄ケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子</li> </ul>
		7月8日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防ーベーシックコースー第2回 「感染経路別予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子</li> </ul>
		7月13日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケアーベーシックコースー第2回 「疼痛」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 上林 沙希子</li> </ul>
		7月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防ーベーシックコースー第3回 「医療関連感染防止策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子</li> </ul>
		7月24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジカルアセスメントーベーシックコースー 第3回目 「急変対応」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉</li> </ul>
		7月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚・排泄ケアーベーシックコースー第2回 「失禁ケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子</li> </ul>
		7月31日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケアーベーシックコースー第3回 「せん妄」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 上林 沙希子</li> </ul>
		8月4日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジカルアセスメントーベーシックコースー 第4回目</li> </ul>



分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
専 門 研 修			「代謝・腎」 講師：糖尿病認定看護師 宅井 さやか
		9月4日(金)	・「外科系キャリアアップ」－創傷ケアコース－ 第1回 「SSIの管理」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		9月8日(火)	・「クリティカルケア」－キャリアアップコース－第1回 「院内患者急変対応について」 講師：救急看護認定看護師 宮崎 隆寛
		9月16日(水)	・「慢性期ケアコース」－内科系キャリアアップコース－ 第1回 「糖尿病患者の治療」 講師：糖尿病看護認定看護師 宅井 さやか
		9月17日(木)	・「新生児集中ケア」－キャリアアップコース－ 第1回 「新生児ケア」 講師：新生児集中ケア認定看護師 看護係長 和田 美枝
		9月18日(金)	・「がん看護」－キャリアアップコース－ 第1回 「症状マネジメント がん患者のスキンケアについて」 講師：がん化学療法看護認定看護師 看護主任 佐々木 孔美 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		10月6日(火)	・「クリティカルケア」－キャリアアップコース－第2回 「救急と集中ケアの事例」 講師：救急看護認定看護師 宮崎 隆寛
		10月14日(水)	・「外科系キャリアアップ」－創傷ケアコース－ 第2回 「創傷管理の実際」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		10月15日(木)	・「新生児集中ケア」－キャリアアップコース－ 第2回 「皮膚ケア」 講師：新生児集中ケア認定看護師 看護係長 和田 美枝 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		10月19日(月)	・「慢性期ケアコース」－内科系キャリアアップコース－ 第2回 「糖尿病患者の事例」 講師：糖尿病看護認定看護師 宅井 さやか
		10月23日(金)	・「がん看護」－キャリアアップコース－ 第2回 「転移・再発時の看護」 講師：乳がん看護認定看護師 竹内 梨紗
		11月9日(月)	・「がん看護」－キャリアアップコース－ 第3回 「疼痛アセスメント」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 阿部 美知子
		11月10日(火)	・「クリティカルケア」－キャリアアップコース－第3回 「感染と栄養の事例」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子 講師：NST専従看護師 看護係長 井上 裕子
		11月13日(金)	・「外科系キャリアアップ」－創傷ケアコース－ 第3回 「フットケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		11月16日(月)	・「慢性期ケアコース」－内科系キャリアアップコース－ 第3回 「感染症事例から考える」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
	11月25日(水)	・「新生児集中ケア」－キャリアアップコース－ 第3回 「感染管理」	

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
専 門 研 修			講師：新生児集中ケア認定看護師 看護係長 和田 美枝
		12月8日(火)	・「クリティカルケア」－キャリアアップコース－第4回 「全分野に関連した事例」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		12月9日(水)	・「外科系キャリアアップ」－創傷ケアコース－第4回 「ドレーン管理」 講師：NST専従看護師 看護係長 井上 裕子 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		12月14日(月)	・「慢性期ケアコース」－内科系キャリアアップコース－第3回 「排泄ケアと尊厳」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		12月17日(木)	・「新生児集中ケア」－キャリアアップコース－第4回 「グリーンケア」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 上林 沙希子
		12月21日(月)	・「がん看護」－キャリアアップコース－第3回 「事例検討」 講師：乳がん看護認定看護師 竹内 梨紗
補 助 者 研 修	看護補助者研修	4月27日(月)	・年間計画の周知、病院の理念、基本方針 講師：統括看護主幹 丸山 邦 ・接遇、倫理面、守秘義務 講師：看護主査 五十嵐 利恵 ・医療安全 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順 ・感染対策 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		7月10日(金)	・褥瘡対策について 円背・拘縮・麻痺と体位変換・除圧 講師：褥瘡対策リンク看護師 ・食事介助で注意すること 講師：NSTリンク看護師
		10月2日(金)	・接遇について 講師：看護部倫理委員会
		12月11日(金)	・感染対策について 講師：感染対策リンク看護師 ・医療安全について インシデント事例から 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順

## 3年目ナース研修 看護研究発表

研 究 テ ー マ	氏 名
高次機能障害を受けた患児の在宅に向けた援助について —食事に関する個別的援助を通して—	4階東入院棟 佐藤 菜美
子宮脱手術後の排尿障害に対する援助を通じた関わり	4階西入院棟 村岡 奈緒美
弾性ストッキング装着中の患者の皮膚トラブル予防についての一考察	5階東入院棟 小野寺 杏奈
下腿骨骨折術後に荷重制限された患者に対する筋力低下予防の効果的な援助	5階西入院棟 柿崎 綾華
大腿骨近位部骨折患者におけるせん妄、不穏に対する看護	5階西入院棟 八幡 千穂
脳卒中患者の再発予防と自己管理に向けた取り組み —私の健康ノート指導後の実態と課題—	6階東入院棟 今野 優喜
化学療法を受ける血液疾患患者の口内炎を予防する関わり —口腔内チェックシートを作成して—	6階西入院棟 結城 彩華
血液透析導入となる患者の入院時から退院までの心理過程と援助	6階西入院棟 斎藤 静香
老年期患者の腹膜透析、自己管理へのアプローチ	6階西入院棟 布施 文歌
在宅酸素療法導入患者への看護援助 —QOL向上に繋がる個別性のある援助の実際—	7階東入院棟 五十嵐 麻美
心不全患者の内服自己管理の指導	7階西入院棟 伊藤 詩菜
ペースメーカー植え込み術前・術後の個別的な指導に向けて	7階西入院棟 太田 有紀
消化器の開腹手術を受けた高齢患者のせん妄回避と離床促進に対する有効な看護介入	8階東入院棟 菅原 晶絵
乳がん手術後のボディイメージの変化に対する心理的サポート	8階東入院棟 菅原 彩
せん妄に対する環境調整の一考察 —絶食患者への関わり—	8階西入院棟 渡會 花香

## リーダーナース研修Ⅰ 看護研究発表

研 究 テ ー マ	氏 名
小学2年生に実施した性教育出前講座内容の評価 —児童と保護者の感想文の振り返りから—	4階西入院棟 工藤智子
高齢者の術後せん妄実態調査 —アセスメントツールを使用して—	5階東入院棟 阿部由香
腎臓造設クリニカルパスの作成 —自宅退院した腎臓造設患者の分析—	5階西入院棟 風間千沙子
運動麻痺評価方法統一に向けての取り組み —評価基準を見直して—	6階東入院棟 佐藤典子
重症度、医療、必要度B項目の評価と記録の整合性を目指して —監査表を用いた自己評価と学習会を試みて—	6階東入院棟 金野かおり
入院棟看護師の手指衛生遵守向上に向けたアプローチ —アンケートを通して問題点の明確化を図る—	7階東入院棟 本間未希
認知症患者と看護師の関わりについての現状調査	7階西入院棟 佐藤淳子
患者のストーマセルフケア確率に向けての援助 —手技統一を目指した学習会と患者アンケート結果—	8階東入院棟 戸田知恵
医療機器関連圧迫創予防ケアの取り組み —予防ケアマニュアルを作成・活用して—	集中治療センター 佐藤舞
膀胱鏡検査を受ける患者の不安や苦痛の実態調査 —外来看護師としての介入方法を探る—	泌尿器科外来 渋谷由美
外来手術を受ける患者・家族の声から —看護ケアの改善点を明らかにする—	整形外科外来 渡部緑

## リーダーナース研修Ⅱ 看護研究発表

研 究 テ ー マ	氏 名
小児における感染症マニュアルの見直しと一覧表の作成を行って	4階東入院棟 庄司敦子
DC機器操作時の不安を解消するための取り組み	7階西入院棟 渡會美紀
日勤業務の時間管理をするための取り組み —昼休憩を考慮した時間管理への意識付け—	8階西入院棟 高橋知枝
周手術期における患者満足度調査の導入と手術センター看護師の意識の変化	手術センター 阿部暁子
手術物品準備に関する業務改善 —看護補助者による物品準備業務の拡大—	手術センター 日下部武美
チーム内の患者情報共有について考える —患者情報用紙の作成を試みて—	血液浄化療法センター 吉田里枝
チームカンファレンス内容の充実を図る	血液浄化療法センター 西田千佳

# V 各診療科別および 各部門別の臨床統計

## 1. 循環器科

2015年1月1日から12月31日までの検査、治療成績を報告する。

表1 カテーテル検査・治療

	2015年	2014年	2013年	2012年
診断カテーテル検査	104	158	183	165
冠動脈形成術 PCI	65(41)	74 (44)	108 (58)	152 (58)
血管内超音波検査	66	72	97	116
末梢血管形成術 PTA	1	6	11	11
ペースメーカー植え込み、交換	55	65	73	48
カテーテル焼灼術	0	1	1	3
下大静脈フィルター	0	8	8	10
IABP	2	3	8	10
PCPS	0	0	0	1
合 計	293	387	489	516

( ) 緊急PCI

表2. 非侵襲的検査

	2015年	2014年	2013年	2012年
心エコー検査	2,611	2,207	2,623	2,362
ホルター心電図	236	276	234	304
トレッドミル運動負荷試験	125	98	104	77
PWV	68	142	240	47
心筋シンチグラフィ	41	16	26	25
冠動脈CT	152	125	166	198
心臓MRI	7	1	5	3

表3. 入院治療

	2015年	2014年	2013年	2012年
退院患者数	983	1,058	1,108	1,028

## 2. 呼 吸 器 科

	2015年外来患者数		入院患者数	気管支鏡検査数
	新 患	再 来		
1月	15	579	61	17
2月	10	452	45	13
3月	12	499	48	14
4月	11	538	39	12
5月	16	489	44	10
6月	25	556	41	17
7月	11	552	44	13
8月	21	497	39	12
9月	13	501	47	11
10月	13	571	52	4
11月	22	442	53	12
12月	15	459	39	9
計	184	6,135	552	144

### 3. 外科手術症例

(2015年1月1日～12月31日)

1 手術総数	予定手術	396 (82.5%)
	緊急手術	84 (17.5%)
	計	480

2 麻酔法別手術	全身麻酔	389 (81.0%)
	腰椎麻酔	35 ( 7.3%)
	局所麻酔	56 (11.7%)
	計	480

#### 3 手術480症例の内訳

#### 手術術式

##### 1) 頸部疾患

甲状腺癌	7	甲状腺部分切除	8
甲状腺腫	9	甲状腺亜全摘術+リンパ節郭清	6
副甲状腺腫	1	腫瘍・腫瘍摘出術	1
計	17	リンパ節郭清術	2
			17

##### 2) 乳腺疾患

乳癌	32	腫瘍・腫瘍摘出術	13
乳腺腫・良性腫瘍	12	単純乳腺切除術	2
計	44	胸筋温存乳房切除+腋窩郭清	4
		胸筋温存乳房切除+(センチネルリンパ節生検)	9
		乳房温存手術+腋窩郭清	1
		乳房温存手術+(センチネルリンパ節生検)	15
			44

##### 3) 食道疾患

食道癌	1	胸腔鏡補助下食道切除術	1
計	1		1

4) 胃・十二指腸疾患			
胃癌	57	幽門側胃切除術	2
胃GIST	2	幽門側胃切除術＋リンパ節郭清	24
残胃癌	4	腹腔鏡下幽門側胃切除術＋リンパ節郭清	14
胃穿孔	3	胃全摘術＋リンパ節郭清	21
出血性十二指腸潰瘍	1	噴門側胃切除術＋リンパ節郭清	2
計	67		
		バイパス術	1
		大網充填術	1
		腹腔鏡下大網縫縮術	1
		ステント抜去術	1
			67
5) 小腸疾患（イレウス除く）			
腸間膜GIST	1	腫瘍摘出術	1
腸間膜腫瘍	1		
小腸狭窄	1	小腸部分切除術	4
虚血性腸炎	1		5
小腸癒着（卵巣腫瘍）	1		
計	5		
6) 結腸・直腸・肛門疾患			
① 結腸			
結腸癌・悪性腫瘍	55	回盲部切除術	4
		右半結腸切除術	5
		横行結腸切除術	3
憩室穿孔・良性腫瘍	4	左半結腸切除術	6
S状結腸軸捻転	3	S状結腸切除	18
潰瘍性大腸炎	1	腹腔鏡補助下結腸切除術	22
計	63		
② 直腸			
直腸癌	16	低位前方切除術	8
良性腫瘍	1	腹腔鏡補助下低位前方切除術	2
直腸脱	1	Hartmann手術	3
直腸穿孔	2	Miles手術	3
計	20		
		経肛門の腫瘍切除術	2



③ 肛門		人工肛門造設術	7
肛門癌	1	人工肛門閉鎖術	1
良性腫瘍	1	バイパス術	1
肛門周囲膿瘍	1		
内痔核	1	Gant-Miwa-Thiersch	1
計	4	痔核結紮・切除術	1
			87
7) 肝臓疾患			
肝細胞癌	1	外側区域切除	1
転移性肝腫瘍	1	右葉切除	1
計	2		2
8) 胆道・膵・脾疾患			
① 胆道			
胆管癌（下部）	2	膵頭十二指腸切除術	5
総胆管結石	3	膵体尾部切除	2
総胆管狭窄	1		
胆石症	61	膵体部部分切除	1
計	67	バイパス術	1
② 膵臓		脾臓摘出術	1
膵癌	5	腹腔鏡下胆嚢摘出術	61
膵管内乳頭粘液性腫瘍	2	総胆管碎石術（開腹）	2
計	7	総胆管十二指腸吻合	2
③ 脾臓			75
脾原発悪性リンパ腫瘍	1		
計	1		
9) イレウス			
癒着性イレウス	13	癒着剥離術	12
絞扼性イレウス	13	腹腔鏡下癒着剥離術	1
計	26	小腸部分切除術	13
			26

## 10) 腹膜・後腹膜

大網GIST	1	大網切除	1
後腹膜腫瘍(腎癌合併)	1	腓体尾部切除	1
腹腔内リンパ節腫脹	2	リンパ節生検/切除術(開腹)	2
腹腔内膿瘍	2	腹腔内ドレナージ	2
計	6		6

## 11) 虫垂疾患

急性虫垂炎	6	腹腔鏡下虫垂切除術	26
反復性/慢性虫垂炎	21	虫垂切除術(開腹)	1
計	27		27

## 12) ヘルニア

鼠径ヘルニア	61	メッシュ等人工素材	65
大腿ヘルニア	4		
閉鎖孔ヘルニア	2	上記以外	4
腹壁瘢痕ヘルニア	2		69
計	69		

## 13) CVポート/カテーテル関連

悪性腫瘍関連	19	CVポート挿入	18
感染/位置異常等	6	CVポート抜去	5
計	25	CAPD抜去	1
		硬膜外カテーテル挿入留置	1
			25

## 14) 泌尿生殖器

ヌック水腫	1		
尿管遺残	1	腹腔鏡下尿管摘出術	1
精索水腫	1	水腫高位結紮術	2
前立腺癌	1	人工肛門造設術	1
計	4		4

## 15) 体表

リンパ節腫脹/再発	14	リンパ節生検/摘出術	10
粉瘤	1	リンパ節郭清術	4
計	15	腫瘍摘出術	1
			15

16) その他

難治性瘻孔	1	人工肛門造設術	3
吻合部狭窄	1		
腹膜播種	1	瘻孔切除+小腸部分切除術	1
呼吸不全	1		
壊死性筋膜炎	1	気管切開術	1
計	5		5

17) 分類不能 5

過去5年間の主な癌症例数の推移

	2011	2012	2013	2014	2015
胃癌	85	66	68	52	61
結腸・直腸癌	83	82	101	84	72
乳癌	38	37	33	44	32

## 4. 小児外科手術症例

(2015年1月1日～12月31日)

1 手術総数	78例
予定手術	62 (79.5%)
緊急手術	16 (20.5%)

## 麻酔方法

全身麻酔	74 (94.9%)
その他	4 ( 5.1%)
腹腔鏡手術	38 (48.8%)
新生児手術	5*

## 2 小児外科手術例の内訳

	病 名	術 式	
1) 鼠径ヘルニア			
	男児 20	Potts'法	13
	女児 11	LPEC法	18
	計 31		31
2) 虫垂炎	15	腹腔鏡下虫垂切除 (うち緊急11)	15
3) 臍ヘルニア	5	臍ヘルニア手術	5
4) 停留精巣	3	精巣固定術	3
5) 中間位鎖肛	2	腹腔鏡下鎖肛根治術	1
		人工肛門閉鎖術	1
		膀胱鏡検査	1
		人工肛門造設術	2
			5
6) 低位鎖肛	1	Potts'手術	1

7) 肥厚性幽門狭窄	1	Ramstedt手術	1
8) 腸重積症	1	Hutchinson手術	1
9) Peutz-Jegheres症候群	1	内視鏡下ポリペクトミー	2
10) 機能廃絶性排便障害	1	Hartmann手術	1
11) 尿膜管遺残	1	腹腔鏡下尿膜管切除術	1
12) 術後癒着性イレウス	1	腹腔鏡下癒着腸管剥離術	1
13) 先天性小腸閉鎖	1 *	小腸部分切除術（根治術）	1
		術後狭窄部再吻合	1
			2
14) 壊死性腸炎	1 *	小腸部分切除術	1
15) Hirschsprung病	3 *	経肛門的直腸粘膜生検	4
16) 頸部リンパ管腫	1	ピシバニール注入	1
17) 頸部リンパ節腫脹	1	リンパ節生検	1
18) 真性包茎	1	環状切開法	1
19) 上腕部皮下腫瘤	1	腫瘤摘出術	1

## 5. 心臓血管外科手術症例

(2015年1月1日-12月31日)

heart disease				
	PDA	2	ligation	2
vascular disease				
	thromboembolism	1	thrombectomy	1
others		1	others	1

## 6. 呼吸器外科

(2015年1月1日～12月31日)

手術総数：101例

全麻手術：101例

完全胸腔鏡下手術：89例 (88.1%)

<肺悪性> 例数 (括弧内は完全  
胸腔鏡下手術)

- 原発性肺癌 55 (53)
  - ・肺葉切除術 23 (22)
  - ・肺区域切除術 24 (24)
  - ・肺部分切除術 8 (7)
- 転移性肺腫瘍 (胸腺癌1、直腸癌3) 4 (4)
  - ・肺区域切除術 2 (2)
  - ・肺部分切除術 2 (2)

<肺良性>

- 良性肺腫瘍 (アミロイドーシス1、軟骨性過誤種1、  
線維性結節1) 3 (3)
  - ・肺葉切除術 1 (1)
  - ・区域切除術 2 (2)
- 炎症性 (気管支拡張症1、  
アレルギー性アスペルギルス症1) 2 (1)
  - ・肺葉切除術 2 (2)
- 嚢胞性肺疾患 (自然気胸 16、感染性巨大ブラ 2)  
18 (17)
  - ・ブラ切除術 18 (17)

<縦隔>

- 縦隔腫瘍 (胸腺癌 1、胸腺嚢腫 4) 5 (4)
  - ・胸腺切除術 2 (1)
  - ・腫瘍切除術 3 (3)

<胸壁・胸膜>

- 漏斗胸 1 (1)
  - ・NUSS法 1 (1)形成外科手術

- 急性膿胸 1 (1)
  - ・膿胸腔搔爬術 1 (1)
- 胸膜炎 1 (1)
  - ・胸膜切除、肺腫瘍針生検 1 (1)

<気管>

- 気管狭窄症 (気管内肉芽) 1 (0)
  - ・気管支鏡下LASER焼灼 1 (0)

<その他>

- 咯血+肺炎 1 (0)
  - ・気管支鏡下EWS除去 1 (0)
- 外傷 (横隔膜損傷 1) 1 (0)
  - ・横隔膜縫合術 1 (0)
- 気管支異物 1 (0)
  - ・気管支鏡下異物除去術 1 (0)
- 術後合併症 (術後肺癰4、気管支瘻・膿胸2)  
6 (4)
  - ・肺癰閉鎖 4 (4)
  - ・気管支瘻閉鎖 筋肉充填 EWS 1 (0)
  - ・気管支鏡下EWS挿入 1 (0)
- 頸部リンパ節腫大 (悪性リンパ腫) 1 (0)
  - ・頸部リンパ節生検 1 (0)

◎総評

- ・手術総数、肺癌手術件数ともに前年とほぼ同数。
- ・総手術に占める完全胸腔鏡手術は約88.1%と増加した。
- ・肺癌手術に占める完全胸腔鏡手術は53/55 = 96.3%と増加した。
- ・肺癌に対する区域切除術は前年21例から24例に増加し、肺葉切除 (23例)を初めて上回った。また、全例が完全胸腔鏡手術で行われた。

## 7. 整 形 外 科

(2015年1月1日～12月31日)

### 臨床統計

2015年 整形外科手術件数	1,211件
大腿骨近位部骨折手術	247件
橈骨遠位端骨折	44件
脊椎手術	149件
人工関節手術	58件
関節鏡手術	78件
など	



## 8. 産 婦 人 科

<b>産婦人科手術</b>	総数	265		<b>産科手術</b>	総数	109
(平成27年1月～12月)				帝王切開		83
子宮手術		102		緊急帝王切開		42
子宮摘出	65			選択的帝王切開		41
子宮悪性腫瘍	10			頸管縫縮術		5
子宮筋腫	27 (腹腔鏡下 16)			流産手術		13
子宮内膜症	7 (腹腔鏡下 4)			人工中絶		1
子宮頸部異形成上皮	5 (腹腔鏡下 3)			子宮外妊娠手術		7 (腹腔鏡下1)
子宮脱	15			<b>その他</b>		13
その他	1 (腹腔鏡下 0)					
子宮筋腫核出	12 (腹腔鏡下 0)			<b>分娩件数</b>		222
子宮頸部円錐切除	20					
その他	5					
<b>付属器 (卵巣・卵管) 手術</b>		41				
悪性腫瘍	11					
良性腫瘍	22 (腹腔鏡下 9)					
子宮内膜症	4 (腹腔鏡下 1)					
卵巣出血	3					
その他	1					

### 産婦人科月別外来患者数

(平成27年1月～12月) 単位：人

月	新患者数	再来患者数	計
1月	37	632	669
2月	45	598	643
3月	39	739	778
4月	38	615	653
5月	24	530	554
6月	39	639	678
7月	44	641	685
8月	46	580	626
9月	46	674	720
10月	46	652	698
11月	49	643	692
12月	46	637	683
計	499	7,580	8,079

### 産婦人科月別入院患者数

(平成27年1月～12月) 単位：人

月	入院患者数	退院患者数	延べ入院患者数
1月	50	46	500
2月	41	42	496
3月	45	37	512
4月	40	40	583
5月	42	44	577
6月	52	46	604
7月	52	52	828
8月	52	59	712
9月	56	50	608
10月	51	61	715
11月	42	34	550
12月	57	67	703
計	580	572	7,388

## 9. 小児科 (NICU)

平成27年の小児科NICU入院数は156例で、5例は減少したものの前年並みの入院数を維持していた。出生体重別入院数は、500g未満が0例、500～999gが4例、1000～1499gが5例、1500～1999gが14例、2000～2499gが41例、2500g以上が91例で、各体重別の入院数は前年とほぼ変わらず、2500g以上の入院が多数を占めていた。死亡退院は在胎26週2日、出生体重880gで出生した男児で、日齢2に胎児炎症反応症候群 (FIRS ; Fetal Inflammatory Response syndrome)、DICで死亡した。

出生場所については院内出生が140/156 (89.7%)、院外出生が16/156 (10.2%) で、例年通り圧倒的に院内出生が多かった。院内出生のうち37/140 (26.4%) が母体搬送症例で、これもほぼ例年並みであった。北庄内からの母体搬送例は6例で前年に比し1例増加したが、北庄内からの新生児搬送は1例のみであった。ハイリスク妊娠が多いため80例に帝王切開が実施されていて、入院児

にたいする帝王切開率は80/140 (57.1%)で、例年に比し高率だった。また人工呼吸管理症例は19/156 (12.2%) で、これは低率だった前年に比し増加していた。新生児外科症例は、先天性小腸閉鎖症、限局性小腸穿孔、ヒルシュスプルング病の3例であり、全例当院で手術を行った。本年度の新生児搬送 (三角搬送) は3例で、救急車搬送が2例、ヘリコプター搬送が1例であった。救急車搬送は宮城こども病院に搬送した大動脈縮窄症を合併したダウン症候群と山形県立中央病院に搬送した低酸素性虚血性脳症の2例であり、ヘリコプター搬送は山形県立中央病院に搬送した低酸素性虚血性脳症の1例だった。

最後に、平成27年4月より当院NICUに勤務した楡井医師の尽力により、新生児低酸素性虚血性脳症に対する脳低温療法が整備され、平成27年11月より当院でも実施可能になった。今まで山形県立中央病院に搬送を余儀なくされていたが、当院でも治療ができるものと期待される。

出生体重	入院数	死亡退院数
～ 499g	0	0
500 ～ 999g	4	1
1000 ～ 1499g	5	0
1500 ～ 1999g	14	0
2000 ～ 2499g	41	0
2500g ～	91	0
計	156	1

## 10. 小 児 科

### 小児科 (2015年度統計)

2015年7月より4階東病棟(以下4東病棟)は、小児患者により専門的で安全な医療を提供するため小児専門病棟としての運営を開始した。保険診療上小児とは15才未満と規定されているため、15才以上の小児科受診患者については小児病棟(4東病棟)より看護師を新たに配置した上で4階西病棟(4西病棟)での入院管理に変更した。安全性に関する取り組みの一環として、これまで外来で行ってきた全身麻酔下の検査については入院で行う方針とし、同様に外来で行ってきた各種内分泌負荷試験についても、安全性と落ち着いて検査を受けられる環境提供の観点から入院での施行に変更した。専門性の高い医療の提供として、ニーズの多かった食物アレルギー患者に対する経口食物負荷試験、およびアトピー性皮膚炎患者に対する入院でのスキンケア指導を開始し、症状の緩和などの予後改善、適切な除去食指導などに成果を上げている。この他、在宅重症心身障害児(者)のレスパイト入院も開始し、小児科通院患者については年齢を問わず小児科管理での受け入れを行っている。上記のような変更により、この統計も以前のものとは単純な比較は出来ないが、本年度は従来の報告と同様の形式で報告する。

表1に入院患者の疾患別分類を示す。4東病棟に入院した患者の合計は1,191人(男児601人、女児590人)であった。疾患内訳は気管支喘息をはじめ多くの疾患群で例年より入院数が増加していたが、川崎病、内分泌・代謝性疾患は少なかった。食物負荷試験およびスキンケア入院の開始に伴い、アレルギー・免疫疾患はそれ以前の平均よりも約33人増加した。全身麻酔下の検査および各種負荷試験を目的に入院した人数は46人であった。15才以上の患者で4西病棟に入院した患者は25名(15才～28才)であった。ICUに入院した患者数は24名であったが、うち2名を除いて4東または4西

病棟に転棟していた。よって、4東・4西病棟およびICUに入院した小児科入院数の合計は1,218名であった。また、4東または4西病棟でレスパイト入院制度を利用した患者数は7名(7才～28才)であった。レスパイト入院については2015年度は試験段階の運用であり、その後市の広報への掲載などを通じて利用が増加している。今後、対象患者の拡大や保育スタッフの増加などを検討し、より地域の実情に合ったものに改良して行きたい。

図1に月別の入院患者数の推移を示す。2015年度は秋にRSウイルスの流行があり、9月～11月の入院患者数が多かったが、インフルエンザの大規模な流行がなく、12月の入院患者数は例年より少なかった。

図2に2010年度より調査を行っている、時間別の入院患者数の推移を示す。例年よりも10時、11時台の入院患者増加が顕著であるが、これは各種検査入院およびスキンケア入院などの予定入院者の増加によるものである。また、一旦減少傾向となっていた午後および21時までに救急外来を受診して入院する患者数は例年より増加していた。同時間帯に地域の医療機関より紹介されて受診する患者も居たが、紹介状なしに午後受診し入院となる患者も多くみられた。当院小児科では現状では紹介状なしに午前外来を受診することができる状況ではあるが、未だ広くは知られておらず午後の

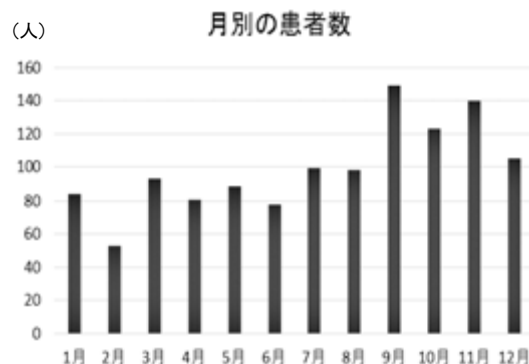


図1. 月別の入院患者数(4東病棟のみ)

受診を増やす要因の1つとなっているが、この度の診療報酬の改定に伴う紹介状を持たない患者に対する自己負担額の増額などの問題もあり、今後しばらくは午後に入院する患者が増える可能性がある。小児病棟の問題点の1つに、夜間入院であっても直接小児科病棟に入院するため、夜間に勤務する看護師の負担が大きい点が上げられる。医療安全の面からは勤務者の少ない夜間帯の入院数が増加することは好ましくないため、今後は地域の医院との連携を密にして、可能な限り日勤帯での紹介をお願いしてゆく事も必要であろう。

当院小児科に期待されている病院機能には様々なものがあるが2015年度は上記のような取り組みを行った。今後も地域の子どもの安全で質の高い医療を提供できるよう、また疾病予防や子どもを取り巻く環境の整備に対する啓蒙など様々な計画を立てている。しかし、これらの計画や現在提供できている医療も十分な小児科医数が確保されてはじめて成り立つものであり、小児科医数が少しでも減少すれば忽ち瓦解するものである。若手医師に対する良い職場環境、教育環境の整備にも変わらず努めていきたい。また、小児医療とは小児科医師のみで実現できるものではない。今後も他科および看護部などの協力をお願いして地域の子

ども達の健やかな生活に貢献してゆければと思う。

最後に、この統計は病棟における入院患者記録をもとに作成しており、病院機能として調査する医療統計とは誤差があることを付記する。

表1. 小児科入院患者の疾患別分類（4東病棟）

疾患群	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
呼吸器感染症	388	496	397	319	377
消化器疾患	94	215	110	101	168
気管支喘息	175	196	126	66	217
神経疾患	113	122	147	139	163
その他の感染症	46	50	46	51	58
腎・泌尿器疾患	22	27	27	40	21
川崎病	22	12	23	14	11
内分泌・代謝疾患	11	12	13	8	6
アレルギー・免疫疾患	10	10	18	19	48
血液・腫瘍性疾患	6	9	6	6	4
事故	11	8	7	8	19
循環器疾患	4	4	2	5	10
心身症	7	0	2	3	1
その他	10	13	13	39	42
検査入院	0	0	0	0	46
合計	919	1,174	937	818	1,191
4階西病棟(15歳以上)					25
I C U(小児科全体)					24
レスパイト(小児科全体)					7

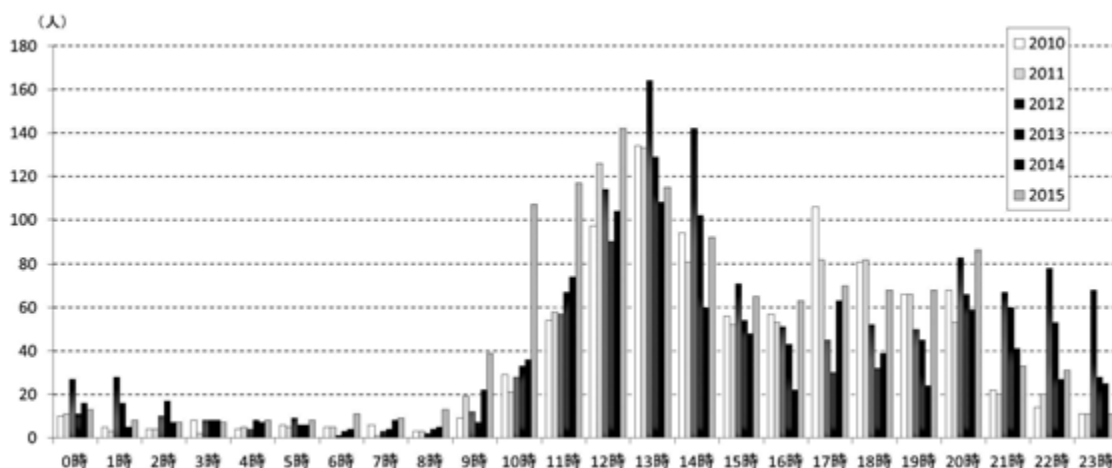


図2. 入院時間別患者数の推移（4東病棟のみ）

## 11. 耳鼻咽喉科

2015年耳鼻咽喉科入院内訳

(耳)	
浸出性中耳炎	6
突発性難聴	5
顔面神経麻痺	2
眩暈症	35
三叉神経痛	1
(鼻)	
鼻出血	2
鼻骨骨折	1
慢性副鼻腔炎	2
(咽喉頭)	
伝染性単核球症	1
咽頭異物	1
扁桃腺出血	1
急性咽喉頭炎（急性扁桃炎を含む）	19
IgA腎症（扁桃腺）	5
扁桃腺周囲炎+膿瘍	3
睡眠時無呼吸症候群	4
自傷行為	1
計	89

2015年手術内訳

鼓室内チューブ留置術	12
鼓膜切開術	1
鼻内篩骨洞手術	2
扁桃腺後出血止血術	1
咽頭異物摘出術	2
IgA腎症 扁桃腺摘出術	10
口蓋扁桃腺摘出術	8
アデノイド切除術	3
咽頭口蓋形成術	1
計	40

## 12. 皮 膚 科

2015年 皮膚科外来患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新患	16	23	32	32	37	57	66	81	42	36	33	25	480
再来	129	129	157	220	141	160	177	164	187	201	160	198	2,023
計	145	152	189	252	178	217	243	245	229	237	193	223	2,503

## 13. 泌 尿 器 科

平成27年 泌尿器科手術件数

手 術 名	件数
根治的腎摘除術	2
腎尿管全摘膀胱部分切除術	2
経尿道の尿管結石碎石術	3
体外衝撃波結石破碎術	7 0
膀胱全摘術	3
経尿道の膀胱癌手術	4 3
経尿道の膀胱結石碎石術	1 2
前立腺全摘術	2
経尿道の前立腺切除術	1
前立腺生検	9 6
精巣悪性腫瘍手術	1
陰のう水腫根治術	2
その他	3
計	2 4 0

## 14. 放射線画像センター

## 〔臨床統計〕

## ・原疾患別放射線治療新患者数 (平成27年1月～12月)

1. 脳・脊髄腫瘍	1例	8. 婦人科腫瘍	4例
2. 頭頸部腫瘍 (甲状腺腫瘍を含む)	0例	9. 泌尿器系腫瘍 (うち前立腺癌)	44例 35(例)
3. 食道癌	7例	10. 造血リンパ系腫瘍	8例
4. 肺癌・気管・縦隔腫瘍 (うち肺癌)	20例 20(例)	11. 皮膚・骨・軟部腫瘍	0例
5. 乳癌	34例	12. その他(悪性腫瘍)	0例
6. 肝・胆・膵癌	1例	13. 良性疾患皮膚ケロイド	2例
7. 胃・小・結・直腸癌	9例	14. (15歳以下の小児)	0例

## 過去3ヶ年の撮影患者数の動向

(単位：人)

	H25年1～12月	H26年1～12月	H27年1～12月
勤務時間内	63,388	64,851	60,743
勤務時間外	16,036	15,706	17,171
合計	79,424	80,557	77,905
前年比		101.43%	96.71%
対前々年比			98.09%

## ・カテーテル法的治療患者数 (H.27年1月～12月)

放射線科 血管撮影 33人

TACE (肝動脈化学塞栓術) 25人

その他IVR (血管内治療) 8人

脳神経外科 血管撮影 74人

動脈瘤コイル塞栓術 7人

CAS (頸動脈ステント留置術) 0人

その他IVR (血管内治療) 5人

## 〔業務統計〕

## ・撮影種別(時間外)患者数 (H26年及びH27年)

(単位：人)

撮 影 項 目	H26年 1月～12月			H27年 1月～12月		
	勤務時間内	勤務時間外	合計	勤務時間内	勤務時間外	合計
一般撮影	29,367	7,181	36,548	27,807	7,760	35,567
ポータブル撮影	5,445	2,804	8,249	4,544	3,307	7,851
乳房撮影	1,526	0	1,526	1,629	0	1,629
パントモ撮影	729	5	734	654	13	667
骨塩定量	1,369	0	1,369	1,329	0	1,329
結石破砕	81	0	81	71	0	71
X線TV	1,966	218	2,184	1,736	136	1,872
一般アンギオ	91	19	110	106	11	117
循環器アンギオ	313	55	368	211	47	258
C T	13,413	4,310	17,723	13,321	4,791	18,112
M R I	5,914	1,114	7,028	5,585	1,101	6,686
R I	348	0	348	367	5	372
放射線治療	4,289	0	4,289	3,374	0	3,374
合計	64,851	15,706	80,557	60,734	17,171	77,905



## 15. 麻 酔 科

2015	その他	全身麻酔（吸入）	1
		小 計	1
	外科	全身麻酔（吸入）	114
		全身麻酔（TIVA）	84
		全身麻酔（吸入）+硬・脊、伝麻	93
		全身麻酔（TIVA）+硬・脊、伝麻	84
		硬膜外麻酔	1
		伝達麻酔	1
		小 計	377
	形成外科	全身麻酔（吸入）	37
		全身麻酔（TIVA）	16
		全身麻酔（TIVA）+硬・脊、伝麻	2
		小 計	55
	産科・婦人科	全身麻酔（吸入）	14
		全身麻酔（TIVA）	59
		全身麻酔（吸入）+硬・脊、伝麻	7
		全身麻酔（TIVA）+硬・脊、伝麻	49
		脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	1
		脊髄くも膜下麻酔	1
		小 計	131
	歯科口腔外科	全身麻酔（吸入）	1
		全身麻酔（TIVA）	7
		小 計	8
	耳鼻咽喉科	全身麻酔（吸入）	12
		全身麻酔（TIVA）	8
		小 計	20
	小児外科	全身麻酔（吸入）	60
		全身麻酔（TIVA）	5
		全身麻酔（吸入）+硬・脊、伝麻	6
		全身麻酔（TIVA）+硬・脊、伝麻	1
		小 計	72
	消化器科	全身麻酔（TIVA）	2
		小 計	2
	心臓血管外科・呼吸器外科	全身麻酔（吸入）	10
		全身麻酔（TIVA）	7

		全身麻酔（吸入）+硬・脊、伝麻	36
		全身麻酔（TIVA）+硬・脊、伝麻	48
		小 計	101
整形外科		全身麻酔（吸入）	173
		全身麻酔（TIVA）	125
		全身麻酔（吸入）+硬・脊、伝麻	25
		全身麻酔（TIVA）+硬・脊、伝麻	34
		脊髄くも膜下麻酔	1
		その他	2
		小 計	360
脳神経外科		全身麻酔（吸入）	10
		全身麻酔（TIVA）	41
		小 計	51
泌尿器科		全身麻酔（TIVA）	4
		全身麻酔（吸入）+硬・脊、伝麻	1
		全身麻酔（TIVA）+硬・脊、伝麻	6
		小 計	11
	総 計		1,189

## 16. 病 理 科

### 臨床統計

病理検査は院内検査、医師会ともにやや減少し、総計では2.9%の減となった。

検体種類別に見てみると、組織診では一臓器が減少したものの、二臓器、三臓器と臓器数の多いものが増加した。細胞診では一般細胞診が前年並みであったが、迅速、ドックは減少した。外部委

託、免疫染色は大幅に増加した。診療科毎の件数を見てみると、組織診では呼吸器外科、皮膚科はやや増加したものの、他は減少した。それに伴い作成ブロック数と標本枚数は減少した。細胞診の標本数はやや増加した。

表 1 2015年 病理検査件数

検査種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年計	増減数	増減率
組織診一臓器	178	163	203	176	153	209	181	154	177	158	149	182	2083	2634	-551	-0.2
組織診二臓器	28	37	32	30	27	33	26	32	26	29	22	31	353	281	72	0.3
組織診三臓器	13	11	16	7	12	9	9	3	9	10	2	4	105	68	37	0.5
術中迅速組織診	10	9	9	12	9	10	10	8	13	14	10	12	126	109	17	0.1
細胞診検査	317	295	363	286	272	329	306	234	304	295	321	333	3655	3632	23	0
術中迅速細胞診	2	6	3	3	1	1	1	0	1	0	0	0	18	31	-13	0.4
検診細胞検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	-3	-1
ドック細胞検査	72	72	64	78	59	92	100	73	74	92	78	70	924	1078	-154	-0.1
外部委託検査	6	16	28	32	23	10	25	37	16	78	16	12	299	121	178	1.5
病理検査小計	626	609	718	624	556	693	658	541	620	676	598	644	7563	7957	-394	0
病理解剖	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	0
免疫染色	37	43	41	38	34	46	36	49	48	43	46	45	506	392	114	0.3
医師会組織診	236	224	286	265	298	325	306	279	298	338	305	277	3437	3640	-203	0
医師会細胞診	69	69	56	51	60	98	83	72	73	80	77	68	856	975	-119	-0.1
病理検査総計	979	989	1066	1032	1027	1128	1093	1018	1103	1210	1112	1006	12364	13131	-368	0

表 2 2015年 診療科別統計

診療科	受付件数組織診	作成組織ブロック数	作成標本枚数組織診	受付件数細胞診	作成標本枚数細胞診	剖検数
内 科	22 (19)	37 (59)	394 (477)	22 (18)	108 (66)	4 (2)
消化器科	923 (989)	1317 (1307)	1890 (1854)	57 (61)	252 (269)	0 (2)
呼吸器科	39 (57)	52 (18)	98 (47)	362 (323)	1714 (1577)	0 (0)
外 科	444 (479)	4273 (5450)	5995 (7703)	410 (352)	1720 (1610)	0 (1)
呼吸器外科	145 (138)	707 (141)	1093 (2325)	22 (27)	112 (140)	0 (0)
小児外科	30 (28)	105 (121)	139 (234)	3 (1)	20 (8)	0 (0)
泌尿器科	214 (311)	1464 (1779)	1901 (2215)	1323 (1232)	2763 (2627)	0 (0)
婦人科	356 (381)	2013 (2498)	2641 (3439)	1575 (1545)	2124 (2040)	0 (0)
形成外科	158 (260)	502 (618)	685 (1012)	1 (0)	2 (0)	0 (0)
整形外科	75 (79)	117 (132)	200 (244)	95 (94)	370 (366)	0 (0)
耳鼻咽喉科	18 (20)	27 (42)	38 (63)	13 (22)	58 (94)	0 (0)
歯科口腔外科	93 (115)	264 (90)	490 (159)	1 (0)	6 (0)	0 (0)
皮膚科	51 (39)	40 (63)	141 (194)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
脳神経外科	7 (15)	30 (43)	60 (90)	1 (2)	2 (0)	0 (1)
神経内科	0 (0)	1 (2)	1 (2)	6 (6)	12 (12)	0 (0)
小児科	4 (3)	0 (23)	0 (132)	2 (2)	6 (4)	0 (0)
眼 科	0 (4)	3 (5)	16 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
人間ドック	82 (154)	186 (214)	253 (250)	1039 (1079)	2712 (2863)	0 (0)
循環器科	5 (4)	9 (15)	29 (20)	9 (2)	48 (10)	1 (0)
その他	1 (0)	2 (6)	5 (12)	7 (1)	7 (8)	5 (0)
合 計	2667 (3095)	11149 (12626)	16054 (20477)	4948 (4767)	12036 (11694)	10 (6)

## 17. 歯科口腔外科

2015.1.1～12.31臨床統計. 口腔外科台帳からのデータ. 例年に比べ悪性腫瘍の新患が少なかった.

表 1 2015年新患

年間新患数	755例	
(内訳) 院外紹介	588例	77.9%
院内紹介	100例	13.2%
救急センター	62例	8.2%
その他	5例	0.7%
歯科：医科	11.5：1	
口腔外科疾患	304例	40.3%
歯科疾患	451例	59.7%

表 2 新患755例の疾患内訳

表 2 A 口腔外科疾患304例の内訳

疾患分類	(例)	(%)
顎関節疾患	29	9.5
炎症	36	11.8
外傷	64	21.1
粘膜疾患	37	12.2
良性腫瘍	25	8.2
唾液腺疾患	28	9.2
悪性腫瘍	2	0.7
顎骨嚢胞	15	4.9
顎変形症 (口蓋裂,SAS埋入依頼を含む)	13	4.3
その他	55	18.1

表 2 B 歯科疾患451例の内訳

疾患分類	(例)	(%)
抜歯	371	82.3
W z 摘出 / W S R	10	2.2
歯科治療	52	11.5
周術期管理	8	1.8
その他	10	2.2

表 3 入院の内訳

疾患分類	(例)	(%)
顎変形症	16	15.8
骨内プレート	7	6.9
悪性腫瘍	2	2.0
良性腫瘍	13	12.9
炎症	7	6.9
外傷	4	4.0
抗凝固剤投与状態	9	8.9
歯の疾患	38	37.6
その他	5	5.0

総数 101  
前年からの越年入院 1  
Sterben 0

表 4 手術統計

日本口腔外科学会専門医制度の手術難易度区分表（2014.10改訂）の分類に基づいた統計で，研修施設を対象とした口腔外科疾患症例調査に準じて集計した。

表 4 A 外来小手術. 総数390術式（複数分野施行は 2 術式）.

分野記号	レベル I 基 本	レベル II 中 難 度	レベル III 高 難 度	レベル IV 超高難度	合 計	
A-1	262	29	0		291	74.6%
A-2	1	0			1	0.3%
A-3	0	0	0		0	0%
B-1	6	2	0	2*	10	2.6%
B-2	30	0	0	0	30	7.7%
B-3	14	0	0	0	14	3.6%
B-4	0	0			0	0%
C-1	7	1	0	0	8	2.1%
C-2	5	0	0	0	5	1.3%
C-3	1	0	0	0	1	0.3%
D-1	3	0	0	0	3	0.8%
D-2	0	0	0	0	0	0%
D-3		0	0	0	0	0%
その他	その他，上記に含まれない埋伏抜歯・生検などの小手術 (ただし，普通抜歯は含まず)				27	6.9%

\* はICUにて挿管下に施行

表 4 B 手術センター手術. 81症例に対して，101術式（複数分野施行・20術式）施行した。

全麻：72例，IV-S：2例，局麻：7例。

分野記号	レベル I 基 本	レベル II 中 難 度	レベル III 高 難 度	レベル IV 超高難度	合 計	
A-1	3	36	0		39	38.6%
A-2	0	0			0	0%
A-3	0	0	0		0	0%
B-1	0	2	0	0	2	2.0%
B-2	14	2	0	0	16	15.8%
B-3	0	1	2	0	3	3.0%
B-4	0	0			0	0%
C-1	0	1	0	0	1	1.0%
C-2	14	5	18	1	38	37.6%
C-3	0	0	0	0	0	0%
D-1	0	1	1	0	2	2.0%
D-2	0	0	0	0	0	0%
D-3		0	0	0	0	0%
その他	その他，上記に含まれない手術				0	0%

<分野記号：分野名>

A-1：歯・歯槽外科手術， A-2：補綴前外科手術/顎堤形成手術/骨移植手術， A-3：口腔インプラント関連手術

B-1：消炎手術， B-2：良性腫瘍・嚢胞・腫瘤形成疾患等の手術， B-3：唾液腺関連手術， B-4：上顎洞関連手術

C-1：顎顔面外傷手術/異物除去手術， C-2：顎変形症関連手術/顎顔面骨延長術， C-3：顎関節手術および関連処置

D-1：癌/前癌病変関連手術および処置(唾液腺悪性腫瘍は別掲)， D-2：再建外科手術， D-3：口唇裂・口蓋裂関連手術

## 18. 中央検査科

検体検査では、細菌検査件数が著しく増加している。迅速検査を除く検査件数の著増によるものである。血清、輸血検査の減少が止まらない。その他検査は隔年で増減を繰り返しており、2015年は減少している。

生理検査件数は、全体として2年連続で減少している。医師施行の超音波検査の技師施行や即日実施検査の拡大を更に進めていきたい。

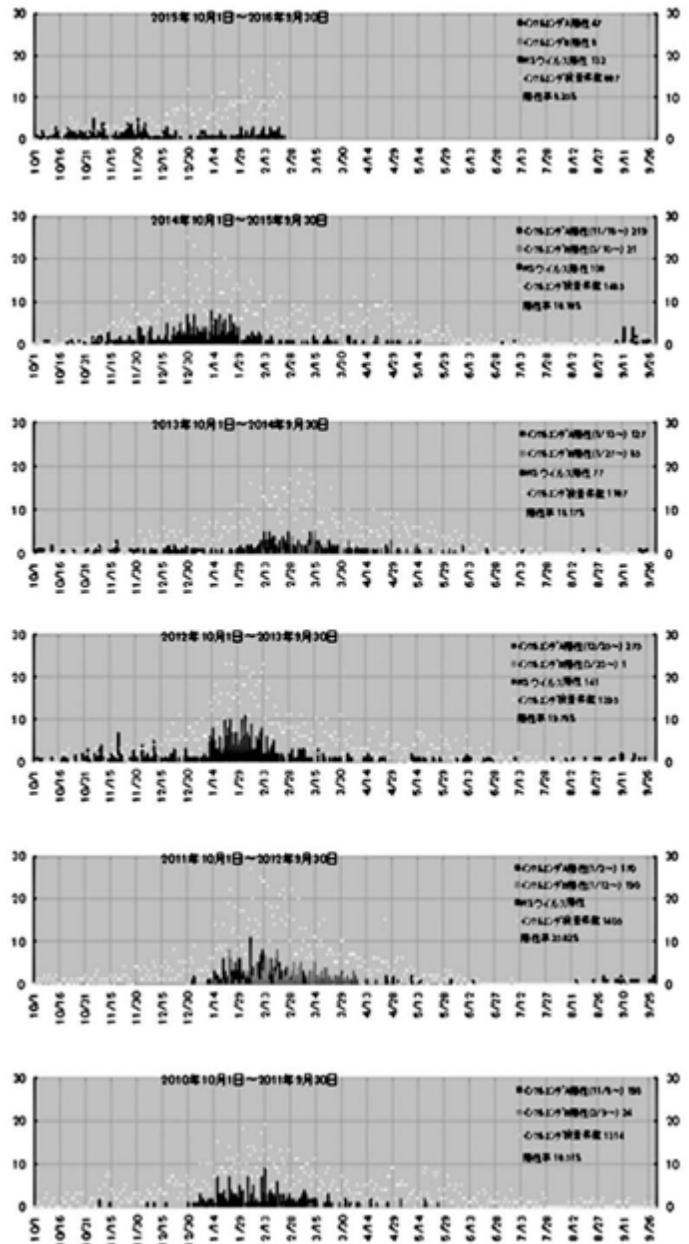
表1 検体検査件数

	2014	2015	増減率(%)
化学	1,256,919	1,212,161	96.44
血液	151,843	147,389	97.07
血清	69,849	64,913	92.93
一般	47,639	45,982	96.52
細菌	22,787	28,043	123.07
(迅速)	4,922	4,913	99.82
(一般菌)	17,865	23,130	129.47
輸血	12,033	10,386	86.31
委託	18,961	17,809	93.92
総計	1,580,031	1,526,683	96.62

表2 生理検査件数

		2014	2015	増減率(%)
生理検査室	心電図等	12,760	12,807	100.37
	(ホータブル)	802	711	88.65
	(シネアンキオ)	362	265	73.20
	超音波/技師	2,711	2,532	93.40
	超音波/医師	1,897	1,926	101.53
	小計	17,368	17,265	99.41
各部署	心電図等	6,963	7,012	100.70
	超音波	5,157	5,099	98.88
	小計	12,120	12,111	99.93
総計	29,488	29,376	99.62	

インフルエンザ検出状況



## 19. 薬 局

薬剤管理指導件数は、退院時指導を含めて大幅に増加した。病棟薬剤業務実施加算の算定と並行して病棟での薬剤師業務を充実させることができた。

院外処方せん発行率については、昨年に比べて上昇したが県内他病院に比べて低いため今後推進を図ってきたい。

### 処 方 箋 枚 数

	H27	H26	前年比
入院処方箋	65,884	67,904	97.0%
外来(院内)	17,340	22,979	75.5%
院外処方箋	62,712	63,016	99.5%
院外発行率	78.34%	73.28%	106.9%

### 注射処方箋枚数

	H27	H26	前年比
注射処方箋(入院)	143,112	159,436	89.8%
注射処方箋(外来)	23,353	31,843	73.3%

### 薬剤管理指導業務

	H27	H26	前年比
指導人数	6,688	6,542	102.2%
指導回数	11,765	11,663	100.9%
通常薬請求件数	4,492	3,663	122.6%
ハイリスク薬請求件数	2,603	1,948	133.6%
麻薬管理指導加算件数	113	168	67.3%
退院時薬剤情報管理指導料算定件数	2,151	1,429	150.5%

### 抗悪性腫瘍剤調製

	H27		H26		前年比	
	(人数)	(件数)	(人数)	(件数)	(人数)	(件数)
(入院)	2006	3771	2,116	4,161	94.8%	90.6%
(外来)	1583	1726	1,436	1,668	110.2%	103.5%

### I V H 調 製

	H27	H26	前年比
調製本数(成人)	966	2,203	43.8%
調製本数(小児)	3,772	7,376	51.1%

I V H調製件数については対象患者の減少に伴い大幅に減少した。

後発品置き換え率については、着実に切り替えを行ってきた成果がでた。目標の80%を維持するために今後も継続して切り替えを行っていく必要がある。

### 製 剤

	H27	H26	前年比
一般製剤	65	65	100.0%
無菌製剤	28	28	100.0%
調製件数	3,075	2,832	108.6%

### 臨床試験・製造販売後調査

	H27	H26	前年比
臨床試験	0	0	—
製造販売後調査	50	36	138.9%

### 持 参 薬 鑑 別

	H27	H26	前年比
鑑別人数	7,269	7,590	95.8%
鑑別件数	10,900	8,529	127.8%

### 外来指導件数

	H27	H26	前年比
指導人数	117	126	92.9%

### 入院時面談件数

	H27	H26	前年比
面談人数	2,551	2,605	97.9%

### 後発医薬品

	H27	H26	前年比
置き換え率(数量ベース)	85.26%	82.50%	103.3%

## 20. リハビリテーションセンター

2015年 リハビリテーションセンター 実施のべ人数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
理学療法	外来	脳血管	14	10	13	14	15	13	15	9	12	12	13	12	152
		脳血管廃用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		運動器	186	168	198	161	147	177	184	165	183	146	165	186	2,066
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
		心大血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		が ん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	脳血管	693	560	830	784	481	776	551	625	693	621	577	569	7,760
		脳血管廃用	129	211	253	150	215	218	253	263	190	147	219	317	2,565
		運動器	879	887	797	816	659	810	921	935	719	918	923	1083	10,347
		呼吸器	40	20	13	69	101	138	134	98	116	156	104	105	1,094
		心大血管	148	96	94	72	85	77	82	46	45	96	61	83	985
が ん		0	0	0	0	48	119	151	122	134	210	143	152	1,079	
作業療法	外来	脳血管	0	0	0	2	1	1	0	0	1	2	3	5	15
		脳血管廃用	0	0	0	0	0	0	0	51	0	0	0	0	51
		運動器	285	270	287	272	189	210	212	174	264	264	225	306	2,958
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		心大血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		が ん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	脳血管	394	377	429	386	274	533	336	411	419	439	429	435	4,862
		脳血管廃用	5	29	8	2	16	16	31	15	19	38	29	31	239
		運動器	93	94	124	183	100	133	181	94	123	175	136	140	1,576
		呼吸器	0	0	0	0	1	0	17	1	0	8	19	14	60
		心大血管	13	0	0	0	0	7	14	21	9	20	8	11	103
が ん		0	0	0	0	0	0	1	4	12	25	3	15	60	
言語療法	外来	脳血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
		脳血管廃用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		運動器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		心大血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		が ん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	脳血管	211	171	239	275	172	274	182	156	215	199	0	147	2,241
		脳血管廃用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	160	0	160
		運動器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		心大血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
が ん		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摂食機能療法	外来	脳血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	入院	脳血管	200	181	342	225	190	199	280	264	226	267	294	282	2,950



## 21. 栄 養 科

### 給 食 の 状 況

#### 1. 栄養指導回数及び延人員

(単位：件、人)

区分 年度	胃腸病			肝臓病			高血圧			心臓病			糖尿病		
	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計
25	494	494 271	765	18	18 5	23	120	120 81	201	90	90 24	114	238	238 96	334
26	553	553 282	835	13	13 3	16	57	57 48	105	91	91 63	154	214	214 92	306
27	579	579 313	892	32	32 20	52	62	62 35	97	83	83 64	147	196	196 115	311
区分	腎臓病						その他						総計		
年度	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計
	25	132	132 62	194	116	116 112	228	117	117 74	191	1,325	1,325 725	2,050	1,325	1,325 725
26	78	78 51	130	129	121 119	240	102	102 54	156	1,229	1,229 712	1,941	1,229	1,229 712	1,941
26	68	68 37	105	50	50 60	110	108	108 84	192	1,178	1,178 728	1,906	1,178	1,178 728	1,906

#### 2. 給食数

(単位：件、人)

区分 年度	一 般 食	特 別 食	給 食 総 数	一 日 平 均 給 食 人 員	給食総数に対する 特別食加算の割合
25	197,741	172,242 (内特別食加算 94,653)	372,927	1,012.5	25.4%
26	184,599	181,372 (内特別食加算 102,646)	365,971	1,005.0	28.0%
27	181,626	169,774 (内特別食加算 91,207)	351,400	970.4	26.0%

#### 3. 主要特別食数内訳

(単位：件)

区分 年度	塩 分 制 限 食	塩 分 透 析 食	塩 分 白 制 限 食	エ ネルギー 指 定 食	エ ネルギー 蛋 白 制 限 食	脂 肪 制 限 食	潰 瘍 食	胃 切 除 食	腸 切 除 食	学 童 食	幼 児 食	食 や わ ら か ご 飯 食	高 蛋 白 食	経 流 動 食	管 他 計
25	13,598	7,543	5,342	23,814	6,455	3,173	1,455	2,497	847	8,722	10,923	0	19,440	68,433	172,242
26	18,657	9,157	6,103	25,340	4,998	3,205	1,690	1,877	4,660	7,546	10,506	0	18,951	68,682	181,372
27	16,969	5,855	4,171	24,729	5,635	2,076	1,015	2,659	3,025	10,584	11,519	51	15,546	65,940	169,774

## 22. 平成27年度糖尿病委員会活動報告

### メンバー紹介

医師：須田克幸・竹田文洋

臨床検査技師：伊藤奈穂 薬剤師：鎌田敬志 五十嵐康朗 栄養士：澤井寛子

助産師：水口雪子 看護師：百瀬幸 佐藤恵美 宅井さやか 斎藤まゆ 榎本真由美 石川由紀

長濱恵美 小屋あき子 太田有紀

### 1、定例委員会 毎月1回 開催 (第1火曜日)

### 2、糖尿病教室 毎月第2金曜日 14：00～15：00

期 日	内 容	講 師	参加者
4月8日	糖尿病って、どんな病気？他の病気との深い関係／ 健康診断：見方と受診のタイミング	看護師	2名
5月13日	測ってみよう 血糖値！数値をどう読む？	検査技師	6名
6月10日	雨の日でもできる！効果的な運動／ 熱中症予防－夏場の水分補給の仕方－	理学療法士 看護師	8名
7月12日	無理なく継続食事療法	管理栄養士	5名
8月12日	糖尿病薬あれこれ 災害への備え 薬の種類 飲み合わせ	薬剤師	4名
9月9日	糖尿病と腎不全／家庭で血圧を測ろう	看護師	6名
10月18日(日) 14：00～16：00	市民講座「糖尿病のつどい」 講師：澤井寛子「楽しく学べる食事療法」	委員全員対応	42名
11月13日	糖尿病と目の病気／感染予防とその対策	眼科医師 看護師	6名
12月11日	プラークコントロールで歯周病予防(歯磨き実践)／ 年末年始の食事のしかた	歯科衛生士 管理栄養士	10名
1月10日	糖尿病とストレス／災害時の備え	臨床心理士 看護師	5名
2月12日	糖尿病神経障害ってどんな病気？／フットケア実践	看護師	3名
3月11日	糖尿病と妊娠	助産師	0名

### 3、糖尿病だより(患者向け広報)発行：月1回

平成27年3月までで、第230号となった。

#### 4、院内研修会

期 日	内 容
平成27年6月2日(火) 17:30~18:30 講堂	「院内ヒヤリ・ハット報告からの事例学習会」 委員会主催
平成28年3月1日(火) 17:30~18:30 201講堂	「フットケア」 委員会主催

研修では、グループワークや器具を使ったフットケア実践を行うことで参加型の研修とした。

#### 5、院外発表

- ◎第6回庄内薬剤師糖尿病講演 2015年6月20日 日本海総合病院講堂  
「ワンタッチウルトラビューワンタッチペンへ交換3年後の血液浄化療法センター通院患者へのアンケート調査」鶴岡市立荘内病院診療部薬局 鎌田 敬志
- ◎第1回庄内糖尿病オールサポートネット研修会 2015年7月4日 公益文科大学  
「当院における糖尿病ケアの実践と今後の展望」 宅井さやか
- ◎山形県医療マネジメント学会 2015年7月9日 山形  
「実践報告 糖尿病療養支援を行う庄内地区スタッフの連携  
—庄内糖尿病オールサポートネット立ち上げ経過の報告—」 宅井さやか
- ◎第20回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 2015年9月21日・22日 高松  
示説「リフレクシオンサイクルを用いた事例の考察」  
交流集会主催「私の糖尿病看護を吟味しよう！事例検討ガイド作成」 宅井さやか
- ◎第4回日本薬と糖尿病学会学術集会 2015年9月26日・27日 新潟  
「山形県内病院の血糖測定器・穿刺器に関するアンケート調査と課題」  
鶴岡市立荘内病院診療部薬局 医療法人社団山形愛心会庄内余目病院薬局 日本海総合病院薬剤部  
庄内薬剤師糖尿病研究会 鎌田 敬志 鈴木 悠太 成田 康之
- ◎日本糖尿病年次集会東北分会 2015年11月7日  
「庄内糖尿病オールサポートネットに求められる役割」 仙台 鎌田 敬志 宅井さやか

#### 6、その他の活動

- ・フットケア外来を内科外来及び血液浄化センターにて実施し、内科外来延べ50数件/年、血液浄化療法センター延べ379件/年でセルフケア、悪化予防が図られている。
- ・内科外来において透析予防指導管理料の算定開始。透析予防のための療養支援を行っている。
- ・糖尿病看護認定看護師が1回/週、外来にて糖尿病患者への介入を行い療養支援の充実を図っている。

#### <学会・研修会への参加>

- ・第58回日本糖尿病年次学術集会 2015年5月21日~24日 山口 血液浄化療法センター 宅井さやか
- ・糖尿病重症化予防研修ブラッシュアッププログラム 2015年5月30日 福岡 内科外来 百瀬幸
- ・フットケア研修 2015年6月6日~7日 川崎 血液浄化療法センター 難波隆
- ・第3回日本糖尿病協会療養指導学術集会 2015年7月25日~26日 京都  
血液浄化療法センター 齋藤まゆ
- ・フットケア研修 2015年8月22日~23日 仙台 内科外来 佐藤恵美
- ・日本糖尿病教育・看護学会学術集会 2015年9月21~22日 内科外来 百瀬幸
- ・日本糖尿病・妊娠学会学術総会 2015年11月20日~21日 東京 4西 水口雪子
- ・日本糖尿病療養指導士受験 2015年3月5日 仙台 8西 長濱恵美

## 23. NST (栄養サポートチーム：Nutrition Support Team) 委員会活動報告

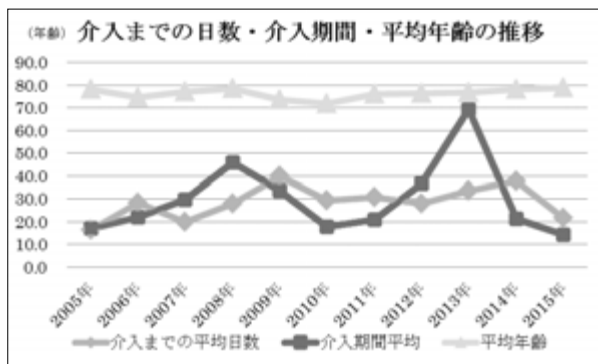
### 1. NST委員会 委員

二瓶幸栄 (医師) 大滝雅博 (医師) 安宅謙 (医師) 坂本薫 (医師) 井上裕子 (看護師)  
 秋野博子 (看護師) 石井佳 (看護師) 富樫悠奈 (看護師) 田中大輔 (薬剤師) 佐藤拓也 (薬剤師)  
 富樫博子 (管理栄養士) 鈴木貴志 (臨床検査技師) 高橋裕美 (臨床検査技師)  
 五十嵐知依 (言語聴覚士) 石垣佑美 (歯科衛生士)

### 2. 活動内容

NST委員会は、主に栄養に関わる管理、提言、啓蒙などの活動を行っている。平成17年より本格的な活動を開始し、引き続き回診・レクチャーなどを中心に活動を行った。

#### ● NSTスクリーニング



#### ● 回診 (毎週水曜日)

定例回診数 46回  
 新規紹介患者 81名 (男性46名、女性35名)  
 回診延べ患者 308名  
 平均年齢 79.4歳 (37-99)  
 うち褥瘡保有患者 10名

#### ● ワーキンググループ活動

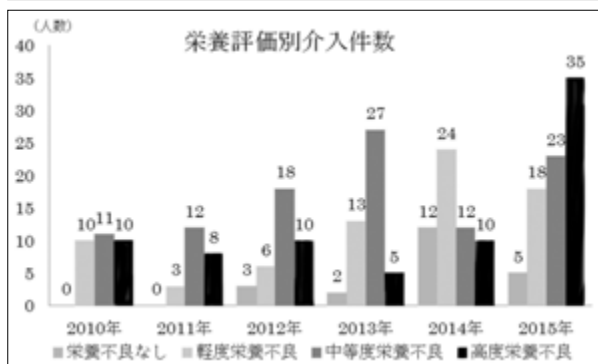
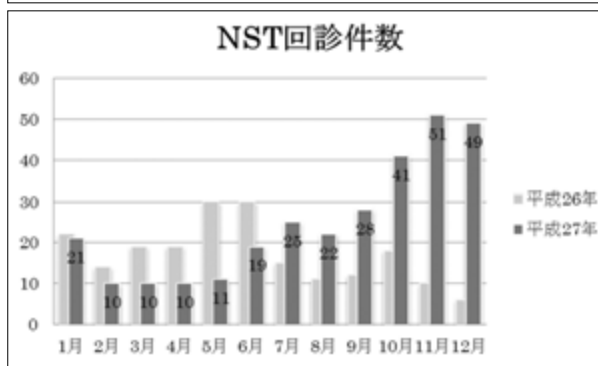
・ガイドライン：経管栄養・嚥下・口腔ケア・  
 静脈栄養について運用中

#### ● 広報活動

・NST通信、荘内病院ホームページ

#### ● 教育活動 (セミナー・学習会など)

院内学習会  
 4月16日 MNA活用とサルコペニアについて  
 4月22日 食事介助・マウスケアの基本的な知識・技術  
 6月15日 経腸栄養の栄養管理  
 7月10日 基本的な食事介助 セッティング・介助で注意すること  
 10月8日 腸内細菌の話題  
 11月24,25日 誤嚥性肺炎について  
 12月10日 高齢者医療におけるフレイルと栄養の問題～身体機能維とONS(経口的栄養補助)の重要性～



介入時栄養状態と最終転帰について

介入時栄養状態良好	9 (11%)	自宅・施設退院	4	転院	5
		死 亡	0		
介入時低栄養のおそれ	22 (27%)	自宅・施設退院	14	転院	6
		死 亡	2		
介入時低栄養	50 (62%)	自宅・施設退院	20	転院	20
		死 亡	10		

NST委員会ミニレクチャー

- 4月9日 MNAの活用とサルコペニアの栄養管理
- 5月14日 サルコペニア総論（症例から学ぶ）
- 6月11日 急性期・慢性期のリハビリと栄養管理について
- 7月9日 侵襲時の生体反応・経腸栄養の感染症合併症の発症リスク
- 9月10日 漢方薬から学ぶ、胃食道逆流や下痢・便秘
- 10月8日 嚥下障害・訓練の理解を深める
- 11月12日 液体栄養剤・胃内の形状変化・半固形栄養剤など
- 12月10日 BCAAの有効的な使用方法について

NST専門療法士資格取得のための実地修練

期間2015年6月8日～7月10日

荘内病院 臨床検査技師 1名 歯科衛生士 1名 看護師 1名

3. 入院棟栄養カンファレンス

入院患者に対する「NST管理システム」を電子カルテ上で入力し、「栄養管理計画書」は、原則全入院患者に対して管理栄養士が作成し、入院棟における定期的な評価（栄養カンファレンス）を多職種で実施し適切な栄養管理に取り組んでいる。

4. 学会・研究会・セミナー（参加・発表など）

- 平成27年2月12日・13日 第30回 日本静脈経腸栄養学会（神戸）  
 富樫博子（管理栄養士）、佐藤拓也（薬剤師）、五十嵐知依（言語聴覚士）、  
 秋野博子（看護師）、井上裕子（看護師）
- 平成27年7月24日・25日 アジア静脈経腸栄養学会（名古屋） 佐藤知子（管理栄養士）
- 平成27年10月31日 第2回 サルコペニア・悪液質・消耗疾患研究会（東京） 田中大輔（薬剤師）
- 平成27年12月12日 第13回 山形NSTセミナー（山形市）  
 「当院NST活動の現状と今後の課題」 五十嵐知依（言語聴覚士）

5. 今後の課題

- 1) NST基準の栄養不良判定の作成と提示、抽出、フィードバック
- 2) 各部門・各職種の活動内容の評価・発表
- 3) コンサルテーション システムの確立
- 4) 口腔ケアの充実
- 5) リハビリテーション栄養への取り組み
- 6) 他チームとの連携と情報共有
- 7) 退院後の栄養管理継続のための地域連携
- 8) NSTスタッフ、職員の啓蒙とスタッフのレベルアップ

## 24. 緩和医療委員会の活動報告

### 1. メンバー紹介（15名）

医師 2 名、薬剤師 2 名、理学療法士 1 名、管理栄養士 1 名（がん病態栄養専門管理栄養士 1 名）

看護師 9 名（緩和ケア認定看護師 2 名、がん化学療法看護認定看護師 1 名、乳がん看護認定看護師 1 名）

### 2. 緩和医療委員会の活動内容

1) 患者・家族会：季節を感じ、気分転換を図ることで、闘病生活のなかでのモチベーションアップや前向きな気持ちにつながる機会をつくるために開催

4月29日 お花見会	8月15日 花火鑑賞会
12月12日 クリスマス会	2月27日 ひなまつり

2) グリーフカード：大切な方を亡くしたご家族のグリーフケアとして作成。7月、12月、3月に47名に発送。11名のご家族から手紙や電話で連絡があり、看護師の関わりに対する感謝の言葉などを頂いた。

3) 院内教育活動：緩和ケア入門講座開催

- 平成27年5月21日「がんのリハビリテーション」 小林拓、竹内梨紗
- 平成27年6月4日「遺族の視点から見た臨終前後の望ましいケア」  
～看取りのパンフレット「これからの過ごし方」に込められた内容を理解しよう～ 和泉典子
- 平成27年7月2日「遺族の視点から見た臨終前後の望ましいケア」  
～臨終前後に求められる医療者の行動とは？～ 和泉典子
- 平成27年9月3日「オピオイドに関するQ&A」 大井直子
- 平成27年12月3日「在宅緩和ケア 入門編」  
社会医療法人北斗病院 地域緩和ケア推進センター長 蘆野吉和
- 平成27年1月21日「がんの脊椎転移に対する整形外科手術と周術期管理について」 浦川貴朗

4) その他

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（PEACEプロジェクト）開催（1月10日、11日）



患者・家族会の様子



入門講座の様子

### 3. 緩和ケア依頼件数

平成26年度の緩和ケア依頼人数は96件（図1）であった。依頼科別では外科36件、呼吸器内科14件、消化器内科13件、泌尿器科13件の順となっていた。また昨年は依頼のなかった整形外科、脳外科、ペインクリニックからの依頼も増えてきており、痛みなど難治性の症状を抱えている患者が紹介されることが多い。依頼内容は複数の内容に渡ることも多く265件で、患者の精神的支援が47件と一番多く、次いで痛み・しびれ45件、家族ケア32件、精神症状30件、（図2）であった。依頼内容は上位3つまでが昨年と同様で、治療経過に伴う患者の精神的支援や家族ケアが求められていることがわかった。詳細は以下のグラフに示す。

7月より緩和ケアスクリーニングを開始。告知、悪い知らせが伝えられた時、化学療法のレジメン変更や中断を迷っている時などを対象に実施しているが、実施は数件に留まっている。今後、緩和ケアスクリーニングを行うことで、医療者が患者の苦痛に気づき、基本的緩和ケアの実践や緩和ケアチームの介入につなげていきたい。

《グラフ》

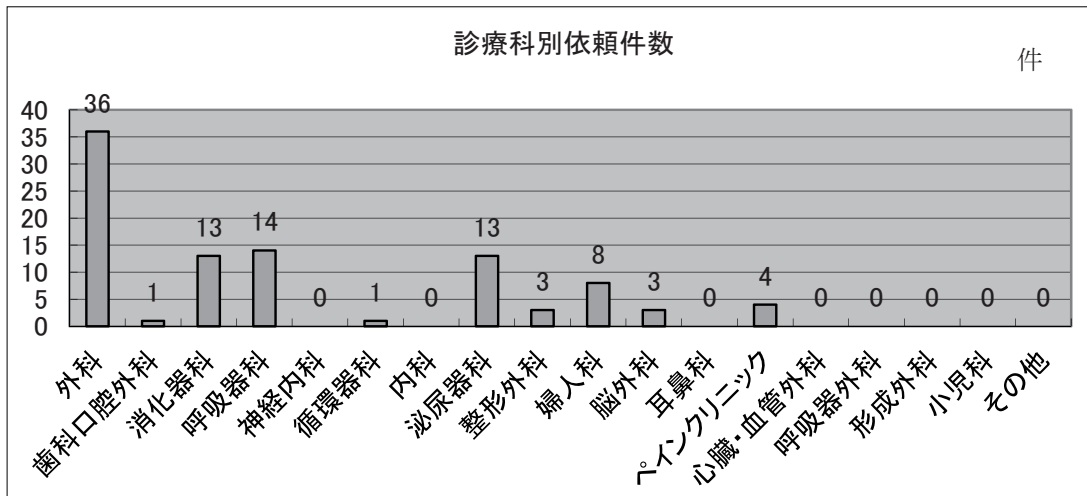


図 1

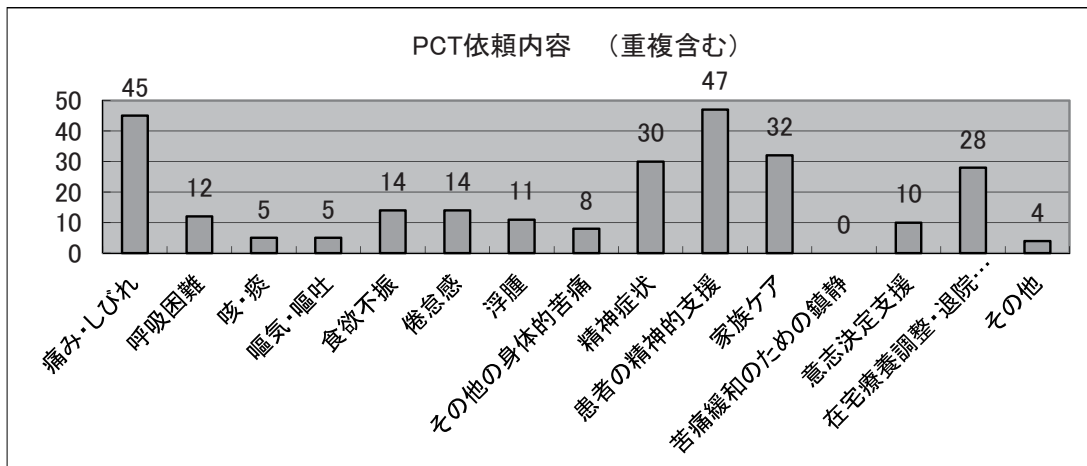


図 2

#### 4. 講演会・研究会一発表、論文

- 日本緩和医療学会学術集会（平成27年 6月19日 パシフィコ横浜）  
「OPTIMプロジェクトで地域診療所はどのように変化したか  
～介入前後のアンケート調査の結果から～」 鈴木聡
- 庄内乳がん懇話会（平成27年 6月26日 東京第一ホテル鶴岡）  
「乳がんリハビリテーション」 竹内梨紗
- 庄内緩和医療研究会（平成27年 8月22日 講堂）  
「外来治療中からスピリチュアルケアを行った1事例ー2分野の認定看護師の関わりからー」  
佐々木孔美
- つるおか健康塾（平成27年 9月19日 講堂）  
「がんと栄養について」 富樫博子
- 山形県緩和医療研究会（平成27年 9月26日 ホテルリッチ&ガーデン酒田）  
「当院における終末期患者のペット面会の現状と今後の課題」 渡部美佳
- NEOSYS NO14 September 2015  
「病院緩和ケアチームによる在宅との医療福祉連携 関係性の構築を前提としたシステムの活用」  
和泉典子 上林沙希子
- 出張緩和ケア研修会（平成27年11月25日 特別養護老人ホーム温寿荘）  
「グリーンケア」 上林沙希子
- 市民公開講座（平成27年11月28日 なの花ホール）  
「パネルディスカッション 乳がん検診」 鈴木聡、竹内梨紗
- 出張緩和ケア研修会（平成28年 1月26日 介護老人保健施設みずばしょう）  
「看取り期の食事、栄養の必要性とすすめ方」 富樫博子  
「高齢者ケアと人工栄養に関する意思決定」 上林沙希子
- 山形県美容師会庄内支部研修会（平成28年 2月 8日 鶴岡市中央公民館）  
「緩和ケア、心のケア」 阿部美知子
- 看取りケア研修（平成28年 3月18日 特別養護老人ホームふじの花荘）  
「看取り期から死別後までのケア」 上林沙希子

#### 5. 今後の課題

- 1) パンフレット・マニュアルの見直しと作成
- 2) がん患者スクリーニングの実施



## 25. 褥瘡予防対策委員会の活動報告

### 1. メンバー紹介（平成27年5月現在）

#### 褥瘡対策委員会

石原 良（委員長：医師） 梅本貴子（副委員長：皮膚・排泄ケア認定看護師） 佐藤和彦（医師）  
 小池千里（医師） 菅原 稔（医事） 百瀬 幸（看護師） 五十嵐可奈子（看護師） 佐藤 南（看護師）  
 富樫千代美（看護師） 佐藤ひとみ（看護師） 富樫敦子（薬剤師、褥瘡学会認定師）  
 國分広志（薬剤師）～11月 澤井寛子（管理栄養士） 佐太木淳一（理学療法士） 五十嵐雅也（総務）  
 事務局：佐藤美津子  
 11月～五十嵐昌美（薬剤師）

#### NST・褥瘡対策リンクナース

菅原 知 佐藤 舞 岡部和歌子 小野寺ひろみ 菅原紀子 難波亮子 今井香里  
 小南亜矢子 野口由梨 工藤真紀子 本間ゆい 林 理絵 井上京子

### 2. 褥瘡予防対策委員会の組織

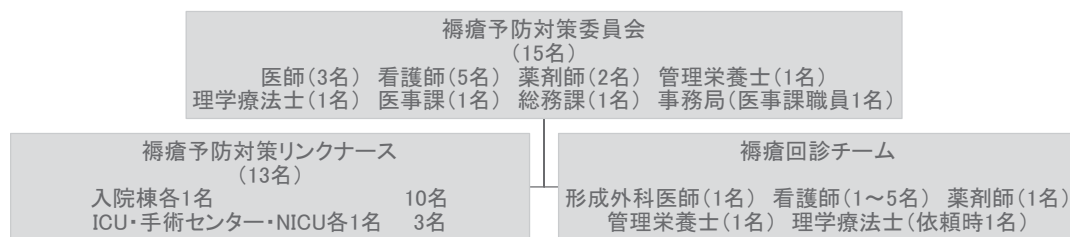


図1 組織図

本委員会は、迅速な褥瘡予防対策・強化を図ると共に、適切な褥瘡ケアを提供し早期改善・早期治癒・在宅を視野においた連携強化を目標に活動している。リンクナースを委員会の下部組織として、褥瘡リスクアセスメントをはじめとし、体圧分散寝具の選択、ケアマニュアルの評価、現場スタッフ教育を行い、褥瘡回診チームはベッドサイドでの総合的なケアを実践し活動している。

### 3. 褥瘡委員会の活動

- 褥瘡予防対策委員会
  - ・年6回 委員会開催
  - ・年2回 褥瘡研修会
  - ・年5回「WCT Times」の発行（No1～5）
  - ・月1回 褥瘡予防・スキンケアラウンド
- 褥瘡回診チーム
  - ・週1回 褥瘡回診・カンファレンス
- 褥瘡予防対策リンクナース
  - ・月1回 会議
  - ・月1回 褥瘡予防・スキンケアラウンド

- ・褥瘡回診同行
- ・各入院棟専任褥瘡管理者

## ○ その他

- ・褥瘡管理システム導入（5月）
- ・紙おむつシステム導入（12月）

市民公開講座の開催で予防対策を市民へ広く情報提供、および、知識の普及を図っている。院内では電子カルテ更新に伴い、褥瘡管理システムが導入された。定期的な評価を行うことでスタッフのアセスメント力が向上し、スタッフの褥瘡予防に対する意識を高めることにつながった。エアマットが適正使用できるよう電子カルテ上で管理・運用した。定期的なラウンドで効果的なポジショニングの検討、指導を強化した。紙おむつシステムが導入となり、リンクナースを中心に勉強会を開催し、使用方法の徹底に努めた。また、廃棄物の削減とおむつ交換回数の減少で業務時間の時間短縮と共にスタッフの排泄ケアに対する意識も高まったと考える。

## 4. 褥瘡研修会の開催

期 日	内 容	参 加
平成27年 6月3日（水） 18：00～19：30	キネステティクス概念を活用した看護実践 —動きはコミュニケーション— 山形県立保健医療大学准教授 東北ひとにやさしい介助を考える会代表世話人 南雲美代子氏	院内 79名 院外 37名 計 116名 参加
平成28年 3月2日（水） 18：00～19：00	床上でできる動きの工夫 —寝たきりつくらない— 理学療法士 佐太木淳一氏 寸劇 床上でのケア 良い例・悪い例 褥創予防対策リンクナース 理学療法士 佐太木淳一氏 床上リハビリの演習	院内 79名 院外 29名 計 108名 参加

## 5. 院外発表

- ・「褥瘡回診記録の収集結果から見える現状と課題」 富樫敦子  
第17回日本褥瘡学会学術集会 平成27年8月28・29日：仙台国際センター
- ・「床ずれ市民公開講座後の評価と今後の課題」 佐藤南  
第17回日本褥瘡学会学術集会 平成27年8月28・29日：仙台国際センター

## 6. 平成27年度褥瘡に関するデータ報告と分析

- ・褥瘡有病率：4.30%（前年度6.16%）  
（日本褥瘡学会2010年調査：2.94%）
  - ・褥瘡推定発生率：1.17%（前年度1.09%）  
（日本褥瘡学会2010年調査：1.40%）
  - ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算：885件
  - ・褥瘡回診：人/週
- ※有病率（%）＝褥瘡保有者/調査日の入院患者数（24時時点＋退院患者）×100  
発生率（%）＝入院後褥瘡発生患者数/調査日の入院患者数（24時時点＋退院患者）×100

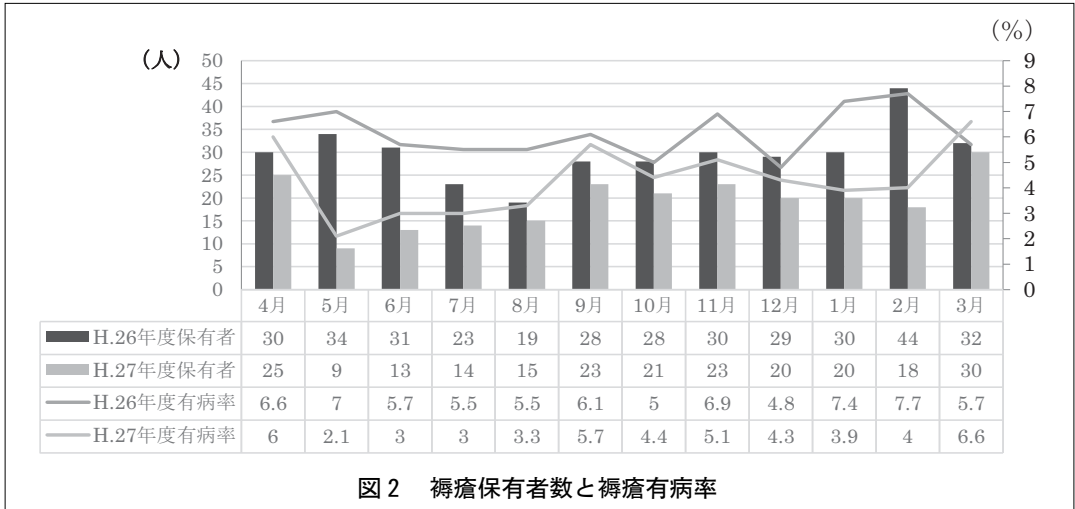


図2 褥瘡保有者数と褥瘡有病率

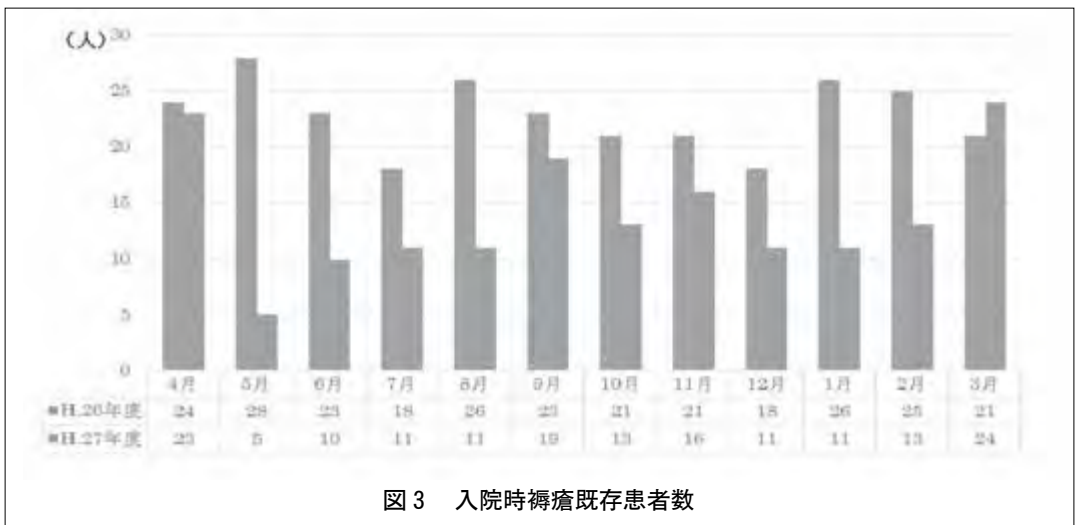


図3 入院時褥瘡既存患者数

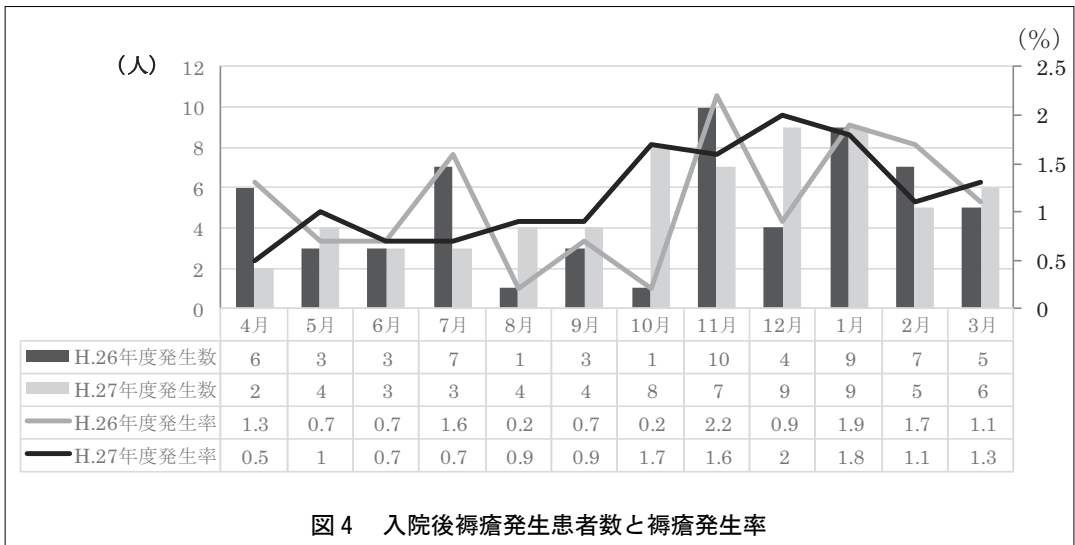


図4 入院後褥瘡発生患者数と褥瘡発生率

前年度比で、有病率は、6.16%から4.30%へ減少し、入院後発生率は、1.17%（前年度1.09%）と当院の指標である1.77%を大幅に下回った。ポジショニングに関する物品や体圧分散寝具の増加により、入院当初から効果的な除圧ができるようになってきている。「褥瘡・予防スキンケアラウンド」の継続、各部署のリンクナースの働きかけにより、褥瘡予防の意識が向上している結果が新規発生を予防している。また、在宅においては、情報提供、知識の普及の機会を通し、市民の褥瘡予防に対する意識の向上に努めている。今後も多職種との連携を深め褥瘡予防対策の構築を目指していきたい。

## 7. 今後の課題

1. 体圧分散寝具・高機能エアマットの効果的な運用と適正配置
2. ポジショニングクッションの充実と適正使用
3. 地域連携強化に向けた退院前カンファレンスの定着
4. 在宅につながる情報の共有化
5. スキンケアの標準化
6. 褥創システムの効果的な活用

## 26. ICT（感染対策チーム：Infection Control Team）活動報告

### 1. メンバー紹介

#### ● ICT

鈴木聡（感染制御ドクター） 幾瀬樹（小児科医師） 若松由紀子（感染管理認定看護師）  
大島幸子・栗田香・佐藤さおり・庄司敦子・佐藤晴子（看護師）  
土屋宏美（感染制御認定薬剤師） 草島宏平（薬剤師）  
中嶋知子・安在冬虹（検査技師） 佐藤麻人（作業療法士）

#### ● リンクナース

伊藤佳子、矢口朋美、佐藤愛梨、本間春圭、小松美和、鈴木大地、本間未希、高橋逸美、  
三浦ひかり、阿部希、渡邊佳代子、武田舞衣、佐藤智子、吉田里枝、五十嵐芽美、八向せつ

### 2. 院内活動

#### ● 定例会議

- ・ ICT会議：毎月2回開催（第2木曜日と第4金曜日）
- ・ リンクナース会議：毎月1回開催（第4水曜日）

#### ● ICTラウンド

- ・ 血液培養陽性患者ラウンド・カンファレンス（毎水）
- ・ SSIラウンド（整形関節：毎火、整形脊椎：毎水、外科開腹：毎金）
- ・ 耐性菌検出患者を中心とした感染対策確認ラウンド（適宜）
- ・ 環境ラウンド（入院棟12部署、中央/外来8部署、コメディカル6部署、委託業者4部署）

#### ● 研修会の開催

##### 1) 全職員必須研修

- ・ 「誤嚥性肺炎 ～診る！アセスメントする！予防する～」352名（2015.11.25-26）  
：星野（医師） 三浦（看護師） 麻人（作業療法士） 石垣（歯科衛生士）
- ・ 「自分を守る"血液・体液 曝露予防"を理解しよう！」187名（2016.01.29）  
：難波（清掃委託） 若松（看護師） 岡崎（保健師） 栗田（看護師）

##### 2) 感染症入門講座

- ・ 「入院患者の発熱をどう診るか」 52名（2015.07.30）：幾瀬（医師）
- ・ 「尿路感染の診断と治療」 69名（2015.08.31）：幾瀬（医師）
- ・ 「症例から学ぶ血液培養の重要性」 52名（2015.10.13）：幾瀬（医師）中嶋（検査技師）
- ・ 「そこが知りたかった！抗菌薬 part1」66名（2015.12.01）：幾瀬（医師）
- ・ 「そこが知りたかった！抗菌薬 part2」70名（2016.02.26）：幾瀬（医師）

##### 3) その他

- ・ Webセミナー「明日から役立つ周術期感染対策～皮膚消毒～」28名（2016.02.24）  
：針原 康（N T T東日本関東病院）

#### ● 感染対策の見直し・導入

- ・ 皮膚消毒における1%クロルヘキシジンアルコールの導入（4月）
- ・ 結核菌検査Tスポットの導入（5月）

- ・感染症治療における抗菌薬の等間隔投与の実施（9月）
- ・静脈留置針スーパーキャスの導入（9月）
- ・経路別対策プレートの導入（12月）
- ・手指消毒薬ウェルフォームの導入（2月）

●広報活動

- ・ICTニュース発行 NO32～33
- ・インフルエンザ情報 NO32～35

●施設間連携

- ・合同カンファレンス：年4回（鶴岡病院、余目病院、その他参加希望施設）
- ・相互ラウンド：年2回（日本海総合病院、新庄病院）

3. 院外活動

1) 学会・研究会等発表

- ・第12回 庄内感染対策セミナー（2015.12.5 酒田市）：若松由紀子  
「インフルエンザ感染対策の取り組み～ICTの早期介入の重要性とその効果～」
- ・メディカ出版 INFECTION CONTROL.2016.vol.25 no.3 P45-46：若松由紀子  
特集「感染症の隔離と解除のプロトコル&フロー：ノロウイルス」
- ・第12回 日本医療マネジメント学会山形県支部学術集会（山形市）：佐藤靖子  
「ビデオを用いた速乾性擦式消毒剤の使用実態調査と課題」

2) 講演

- ・ぶちたみ（2015.6.15）「納得！解決！自宅でできる感染予防」：若松由紀子
- ・かたくり荘研修会（2015.7.15）「高齢者福祉施設による感染症とその対応」：若松由紀子
- ・つるおか健康塾（2015.11.7）「インフルエンザの季節です」：若松由紀子

4. 活動のトピックス

1) 耐性菌の院内発生率の減少と経路別対策プレートの導入

耐性菌の院内発生率は、図1のとおり減少した。更なる徹底に向けて、“経路別対策プレート”を作成した。プライバシー配慮の点で検討を重ね、ようやく導入できた。部署スタッフだけでなく、検査やリハビリ等を担当するコメディカルや面会者も理解・実践しやすい体制が整備できた。

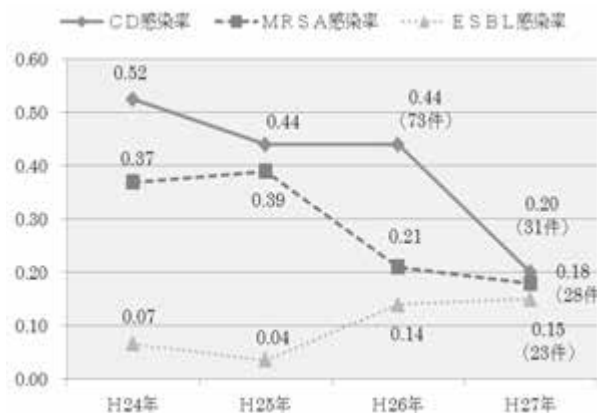


図1. 耐性菌の新規院内発生率の推移



図2. 接触感染対策中のプレート

2) 効果的な血液培養陽性者ラウンドの実施

血液培養陽性者ラウンドでは、抗菌薬の変更、腎機能に対する投与量調節、感染症診断、TDM実施、追加の精査依頼、血培陰性確認依頼などのリコメンデーションを行った(図3)。それに対し、主治医は約90%を実施した結果となった。

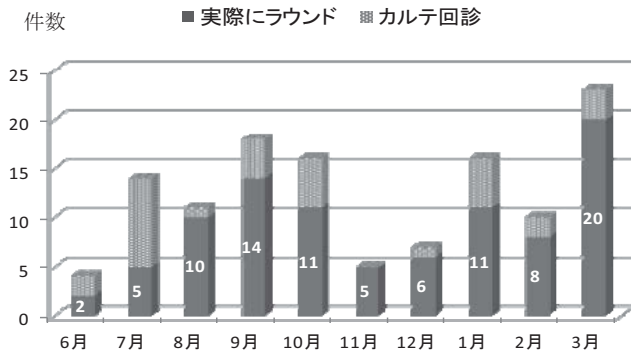


図3. 血液培養ラウンド件数

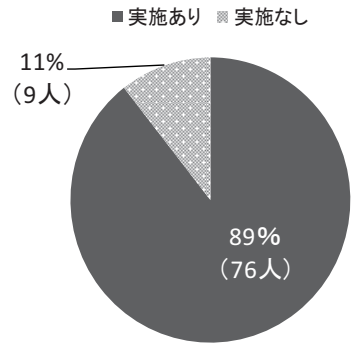


図4. 主治医の対応

3) 血液体液曝露事例の分析と対応

2015年の血液体液曝露件数は20件であり、過去6年と比較し最も多かった。そのつど事例分析を行い、静脈留置針の安全器材への変更、鋭利な廃棄物の誤廃棄や後片付けの徹底に取り組んだ。

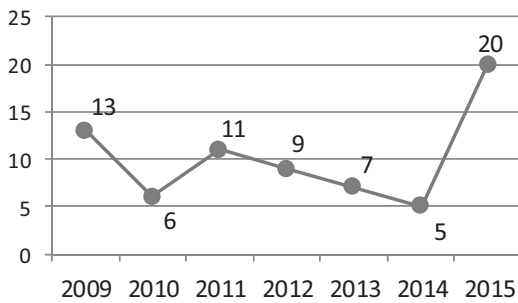


図6. 血液体液曝露件数の推移

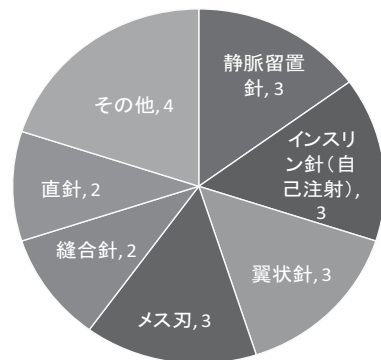


図5. 原因器材と件数

表1. 受傷者の職種と人数

職 種	人 数
看護師	12
医師	4
清掃業者	3
看護補助者	1

## 27. 呼吸サポートチーム（RST）活動報告

### 1. メンバー紹介

#### ・RST

正岡俊明（呼吸器外科） 岸正人（麻酔科） 渡部直人（麻酔科） 星野芳史（呼吸器科）  
 渡部まゆみ（集中治療センター看護師） 三浦良哉（集中治療センター看護師）  
 佐藤慎吾（集中治療センター看護師） 長谷川幸人（臨床工学技士） 齋藤加恵（理学療法士）  
 田中大輔（薬剤師）

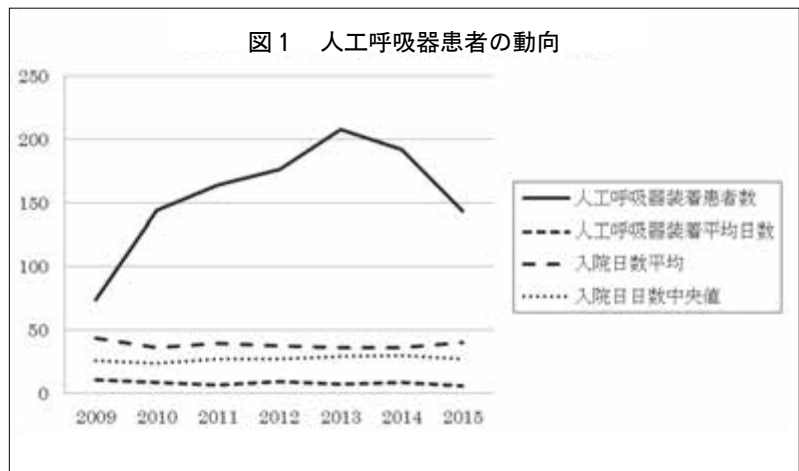
#### ・RSTリンクスタッフ

山本麻衣（4 東入院棟看護師） 佐藤知春（NICU・GCU） 若生円（6 西入院棟看護師）  
 齋藤千夏（7 東入院棟看護師） 小野寺里奈（7 西入院棟看護師） 星野悠太（8 東入院棟看護師）  
 佐藤孝太（集中治療センター）

### 2. RST 介入依頼件数および人工呼吸器患者の動向

当院における、2015年1月から12月までの人工呼吸器装着患者は143名で、人工呼吸器使用期間は1日から最長88日であり、平均は5.80日、中央値は2日でした。人工呼吸器患者の入院期間は死亡退院を含め1日から最長354日であり、平均40.5日、中央値27日でした。2014年との比較では、人工呼吸器装着患者数は2013年を最大とした208名から2015年は143名と更に減少傾向にあります。人工呼吸器装着期間の短縮はRST介入の成果の一つと考えられます。人工呼吸器装着平均日数は8.6日から5.8日に減少しており、入院日数中央値も30日から27日で減少しているものの、入院日数平均値は36.4から40.5日と増加しています。これは入院日数が長期に渡る症例によるものと考えます。それ以外の数値は大きな変化はありませんでした（図1）。

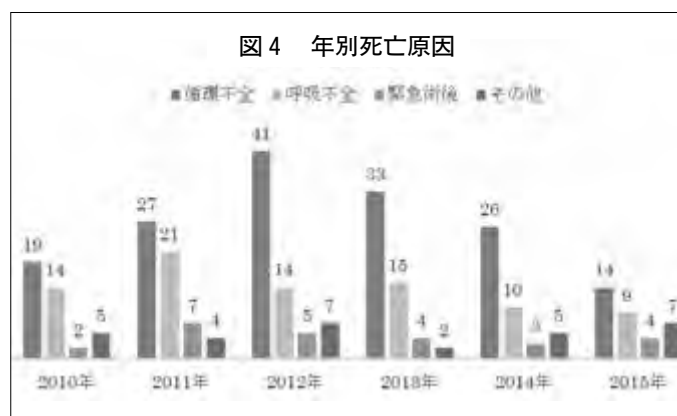
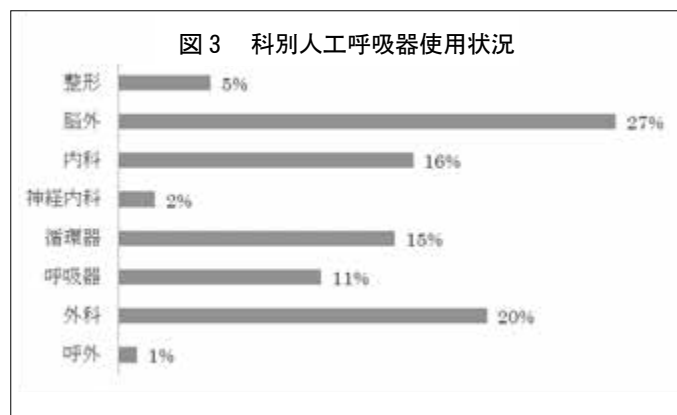
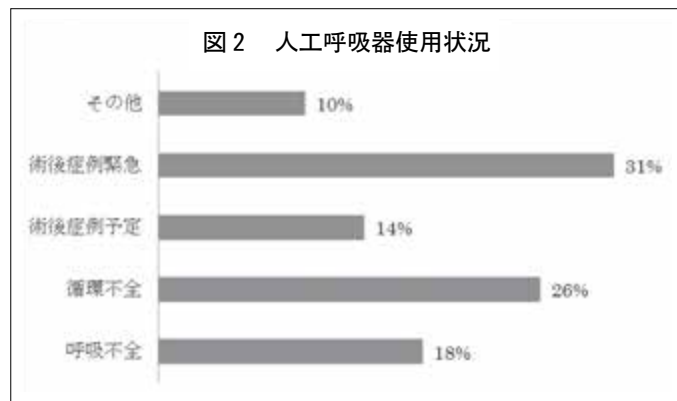
これらのことより、人工呼吸器装着日数や入院日数などはわずかに減少傾向と捉え、2009年から行っている口腔ケア実施の徹底やVAP予防の寄与が大きいと考えられます。人工呼吸器使用状況は、緊急術後症例が31%、循環不全が26%で、次いで呼吸不全が18%でした（図2）。概ね過去5年間と変わらず、緊急術後症例と循環不全（心停止含む）の人工呼吸器使用が多い傾向となっています。



科別人工呼吸器使用状況では例年通り、脳神経外科の使用が多く、次いで外科・循環器科・呼吸器内科・内科の4科の使用が多い傾向でした（図3）。

診療科別人工呼吸器装着の内訳として、脳神経外科ではICD・SDH・SAHによる開頭術（coil含む）の緊急症例が64%、外科では79%が消化管穿孔・閉塞の疾患、呼吸器科では呼吸不全における症例が60%を占めており、肺炎など感染に起因する症例も20%、次いで喘息が20%でした。循環器科ではうっ血性心不全が38%、心停止後が19%でした。内科では、心停止後が33%と多く、次いでうっ血性心不全が22%で





した。その他として出血性ショックと敗血症が3%ずつ、痙攣重積発作が7%でした。

また、2015年の人工呼吸器装着患者の死亡者数は34名で昨年より10名減少しており、循環不全が原因の多くを占めていました(図4)。その内の38%が蘇生に成功した心停止でした。残りの死因として脳外科系疾患が21%、呼吸器系疾患が24%、その他(敗血症や出血性ショックなど)18%でした。

RST介入率(図5)は、全体の呼吸器使用患者の65%と昨年と比べ大きく介入率が増加しています。非介入例の内訳として、介入前や土日の早期抜管が多かったこと、早期の死亡退院が大半をしめており、非介入としては例年通りの結果と考えます。また、介入期間は1日から最大101日間と長く介入していた患者もいますが平均で7.8日、中央値で3日でした。人工呼吸器離脱率(図6)は2009年からの6年間のデータでは6割から7割後半程度で推移しており、大きな変化はありません。離脱できなかった4割弱の大半は死亡退院しており、その内訳の半数は蘇生に成功した心停止による死亡退院でした。

2015年は昨年の課題であった鎮痛スケールの定着に成功しました。人工呼吸中でコミュニケーションを十分にとれない患者でも、疼痛の評価を行うことで鎮静と鎮痛の管理が標準的に進んでいくようになってきています。また、今

後はRASSを併用したせん妄評価(Confusion Assessment Method for the ICU: CAM-ICU)の導入準備を進めており、せん妄の共通認識を深め、患者の予後が改善できるようにサポートしていきます。

### 3. RST委員会活動内容

#### ① 人工呼吸器装着患者ラウンド

主に集中治療センターにおいて、人工呼吸器装着患者のうち介入依頼のあった症例に対し介入し、人工呼吸器管理から離脱までを主治医とともに管理しています。症例により気管切開が必要な場合は、集中治療センターもしくは手術室での気管切開術も施行し合わせて管理しています。

図5 RST介入率



図6 人工呼吸器介入率



## ② 日本集中治療医学会東北地方会（福島）で演題発表

演題名：「脳低体温療法プロトコル導入に向けた試み－A病院ICUスタッフがプロトコルに求める内容の抽出－」

発表者：三浦 良哉

日 程：5月23日の口演で発表

## ③ 日本呼吸療法医学会学術集会（京都）で演題発表

演題名：「挿管患者の鎮痛に対する看護師の意識調査－鎮痛スケールBPSを導入して－」

発表者：佐藤慎吾

日 程：7月18日のポスターセッションで発表

## ④ ハイフローセラピー（高流量酸素療法）管理マニュアルの運用

ネーザルハイフロー：Nasal High Flow（NHF）導入に伴い、換気設定基準、離脱基準、中止基準、点検表に基づき運用しています。

## 4. RSTリンクスタッフ活動報告

## ① RSTリンクナースによる入院棟ラウンドを開始

リンクナース会議の一環として、人工呼吸器装着中患者および、酸素療法や呼吸療法が必要な患者のラウンドを実施し、管理方法やケアについて共有することで、リンクナースの自部署における役割の明確化と知識の確立を図りました。

## ② 自部署における呼吸ケアに関する問題解決に向けた取り組み

呼吸療法関連の問題点を抽出（現状把握）し各部署で問題解決・改善に向けての活動を実践しました。

## 5. 講演会

テーマ：「敗血症について」

概論～薬剤～観察とケアの視点で講演

講 師：呼吸器内科医師 星野芳史

主任薬剤師 田中大輔

集中ケア認定看護師：三浦良哉

講演日：2015年2月20日（金）18：00～19：30 参加人数：97名

## 6. 3学会合同呼吸療法認定士

平成27年 第20回呼吸療法認定士取得・更新

該当者なし

## VI 2015年 荘内病院におけるがん登録の現況報告

当院は、平成22年10月に山形県がん診療連携指定病院に指定され、平成23年から山形県がん診療連携協議会がん登録部会に参加し、平成25年以後院内がん登録を国に報告している。平成25年は、山形県のがん登録は9,145件、当院の登録は939件で、山形県のがん症例の10%強が当院から登録されていた。

2015年の当院におけるがん登録の現況を報告する。登録患者848件で件数は前年とほぼ同数である。

来院経路は約76%が紹介（他院／がん検診／健康診断）であった。発見経路は、自覚症状で受診して診断されたものが48%、他疾患経過観察中が28%、人間ドック・健診が24%であった。がん検診、人間ドック、健康診断による発見が、国立がんセンター発表の全国平均が20%以下に対し当院は24%とやや多い。また、当院で登録されたがん患者の約85%は当院で治療を行った。

### 来院経路別

(全症例)

来院経路	25年症例件数/(割合)	26年症例件数/(割合)	27年症例件数/(割合)
自主	69 (7.4%)	53 (6.2%)	54 (6.4%)
紹介 他院	643 (69.1%)	586 (68.4%)	590 (69.6%)
紹介 がん検診	47 (5.1%)	54 (6.3%)	48 (5.7%)
紹介 健康診断	1 (0.1%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)
紹介 人間ドック	18 (1.9%)	8 (0.9%)	5 (0.6%)
他疾患経過観察中	121 (13.0%)	115 (13.4%)	123 (14.5%)
その他	31 (3.3%)	41 (4.7%)	26 (3.1%)
合計	930 (100.0%)	858 (100.0%)	848 (100.0%)

### 発見経緯別

(全症例)

発見経緯	25年症例件数/(割合)	26年症例件数/(割合)	27年症例件数/(割合)
がん検診	138 (14.8%)	157 (18.3%)	159 (18.8%)
人間ドック・健康診断	67 (7.2%)	67 (7.8%)	46 (5.4%)
他疾患経過観察中	238 (25.6%)	199 (23.2%)	238 (28.1%)
自覚症状・その他	487 (52.4%)	435 (50.7%)	405 (47.8%)
合計	930 (100.0%)	858 (100.0%)	848 (100.0%)

### 症例区分別

(全症例)

症例区分	25年症例件数/(割合)	26年症例件数/(割合)	27年症例件数/(割合)
診断のみ（他施設へ紹介含む）	42 (4.5%)	73 (8.5%)	91 (10.7%)
自施設診断・自施設治療	729 (78.4%)	631 (73.5%)	610 (71.9%)
他施設診断・自施設治療	147 (15.8%)	130 (15.2%)	116 (13.7%)
他施設にて治療開始後	10 (1.1%)	23 (2.7%)	25 (2.9%)
その他	2 (0.2%)	1 (0.1%)	6 (0.7%)
合計	930 (100.0%)	858 (100.0%)	848 (100.0%)

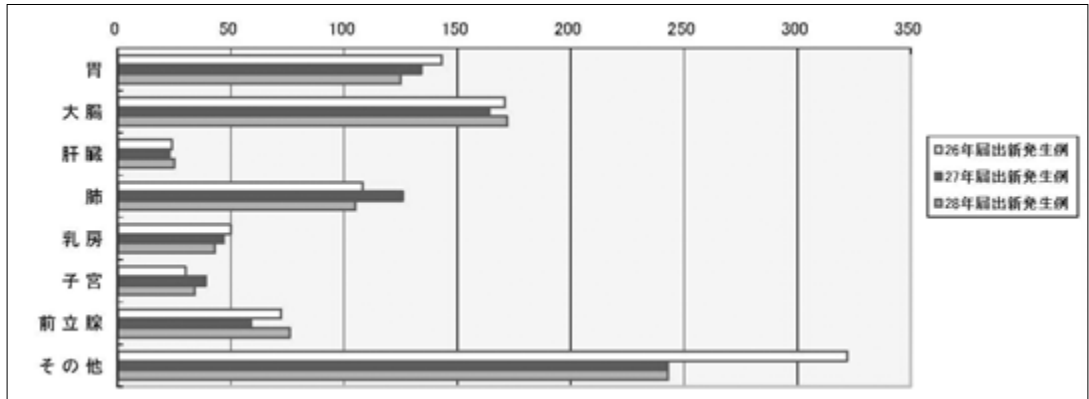
地域がん登録届出件数 (全症例)

性別	26年届出	27年届出	28年届出
男	532	506	477
女	398	352	371
総数	930	858	848

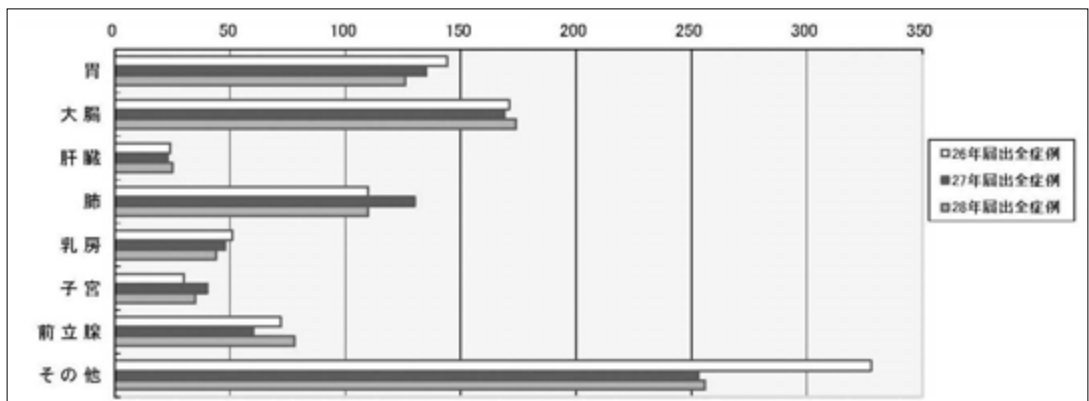
部位別届出件数

部位	26年届出新発症例	26年届出全症例	27年届出新発症例	27年届出全症例	28年届出新発症例	28年届出全症例
胃	143	144	134	135	125	126
大腸	171	171	164	169	172	174
肝臓	24	24	23	23	25	25
肺	108	110	126	130	105	110
乳房	50	51	47	48	43	44
子宮	30	30	39	40	34	35
前立腺	72	72	59	60	76	78
その他	322	328	243	253	243	256
総数	920	930	835	858	823	848

がん部位別新発症例届出件数



がん部位別全症例届出件数



## 性別登録患者数

(全症例)

	26年男	26年女	26年計	27年男	27年女	27年計	28年男	28年女	28年計
C02-06 口唇・口腔	6	3	9	4	2	6	1	1	2
C07-08 大唾液腺	1	0	1	0	1	1	0	0	0
C09-13 咽頭	1	0	1	1	0	1	1	0	1
C15 食道	20	6	26	17	4	21	16	2	18
C16 胃	87	57	144	97	38	135	81	45	126
C17 小腸	2	2	4	0	0	0	0	1	1
C18-19 結腸	76	55	131	64	62	126	62	74	136
C20 直腸	20	20	40	25	18	43	22	16	38
C21 肛門管	0	1	1	0	1	1	0	1	1
C22 肝・肝内胆管	18	11	29	17	6	23	13	12	25
C23 胆のう	6	16	22	2	6	8	6	5	11
C24 胆管	10	10	20	9	10	19	9	7	16
C25 膵臓	27	24	51	14	22	36	26	19	45
C30-31 鼻腔・副鼻腔	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C32 喉頭	3	0	3	0	0	0	1	0	1
C34 肺	82	28	110	101	29	130	73	37	110
C37 胸腺	1	0	1	1	0	1	1	0	1
C38・47-49 軟部組織	4	4	8	5	4	9	1	2	3
C40-41 骨	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C42 造血系	8	7	15	9	6	15	15	9	24
C44 皮膚	13	20	33	16	8	24	7	11	18
C50 乳房	0	51	51	0	48	48	1	43	44
C51 外陰		2	2		0	0		1	1
C52 膣		0	0		1	1		0	0
C53 子宮頸部		22	22		27	27		27	27
C54 子宮内膜		8	8		13	13		8	8
C56 卵巣		11	11		9	9		11	11
C60 陰茎	0		0	1		1	0		0
C61 前立腺	72		72	60		60	78		78
C62 精巣	2		2	2		2	1		1
C64-66 腎・尿路（膀胱を除く）	15	8	23	14	5	19	19	7	26
C67 膀胱	30	11	41	26	9	35	19	8	27
C70 髄膜	5	6	11	1	5	6	3	3	6
C71 脳	4	0	4	3	1	4	3	4	7
C72 脳神経系	0	0	0	1	2	3	2	1	3
C73-75 甲状腺・その他の内分泌腺	6	8	14	1	10	11	5	5	10
C77 リンパ節	6	4	10	12	3	15	9	7	16
C80 原発不明癌	7	3	10	3	2	5	2	4	6
合計	532	398	930	506	352	858	477	371	848

## 10歳年齢階級別登録数

(28年届出新発生例)

部 位	0-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-	合 計
C02-06 口唇・口腔	0	0	0	1	0	0	1	0	2
C15 食道	0	0	0	0	6	6	6	0	18
C16 胃	0	0	3	9	24	48	34	7	125
C17 小腸	0	0	0	1	0	0	0	0	1
C18-19 結腸	1	0	3	11	28	45	36	12	136
C20 直腸	0	1	1	0	10	14	9	1	36
C21 肛門管	0	0	0	0	0	1	0	0	1
C22 肝・肝内胆管	0	0	0	2	3	10	8	2	25
C23 胆のう	0	0	0	1	1	4	4	1	11
C24 胆管	0	0	0	0	4	4	6	2	16
C25 膵臓	0	0	0	2	8	16	17	1	44
C32 喉頭	0	0	0	0	0	1	0	0	1
C34 肺	0	0	1	8	23	32	37	4	105
C37 胸腺	0	0	0	0	1	0	0	0	1
C38・47-49 軟部組織	0	0	0	0	0	2	1	0	3
C42 造血系	1	1	1	2	4	7	5	1	22
C44 皮膚	0	0	0	0	2	4	8	4	18
C50 乳房	0	1	4	7	15	7	8	1	43
C51 外陰	0	0	0	1	0	0	0	0	1
C53 子宮頸部	1	11	9	1	4	0	0	0	26
C54 子宮内膜	0	1	1	1	1	2	1	1	8
C56 卵巣	0	1	4	0	2	2	1	0	10
C61 前立腺	0	0	0	4	20	23	27	2	76
C62 精巣	1	0	0	0	0	0	0	0	1
C64-66 腎・尿路(膀胱除く)	0	0	2	2	4	5	4	4	21
C67 膀胱	0	0	0	0	6	8	9	3	26
C70 髄膜	0	0	0	0	0	4	1	1	6
C71 脳	0	0	0	1	0	1	3	1	6
C72 脳神経系	0	0	1	0	0	1	0	0	2
C73-75 甲状腺・その他の内分泌腺	1	0	1	4	2	0	2	0	10
C77 リンパ節	0	1	0	1	2	5	5	2	16
C80 原発不明癌	0	0	0	0	3	1	2	0	6
合 計	5	17	31	59	173	253	235	50	823

# VII 荘内病院人間ドック・検診検討委員会報告

人間ドック・検診成績表

		受診者(A)	要精検者(B)	精検受診者中 回報書回収(C)	がん以外 その他疾患(D)	がん (E)	
		(一次検診 受診者数)	(要精検率)	(精検受診率)		(陽性反応適中度)	(がん発見率)
		要精査者/受診者 (B)/(A)	回収/要精査者 (C)/(B)	疾患/要精査者 (D)/(B)	がん/要精査者 (E)/(B)	がん/受診者 (E)/(A)	
H25ドック	大腸がん検診	1,966	137 6.97%	93 67.88%	34 24.82%	5 3.65%	0.25%
	胃がん検診	1,950	111 5.69%	69 62.16%	43 38.74%	9 8.11%	0.46%
	肺がん検診	1,967	61 3.10%	43 70.49%	25 40.98%	0 0.00%	0.00%
	子宮がん検診	554	11 1.99%	5 45.45%	4 36.36%	1 9.09%	0.18%
	乳がん検診	679	33 4.86%	24 72.73%	8 24.24%	0 0.00%	0.00%
	甲状腺	679	3 0.44%	3 100.00%	3 100.00%	0 0.00%	0.00%
	H26ドック	大腸がん検診	1,919	135 7.03%	97 71.85%	53 39.26%	2 1.48%
胃がん検診	1,909	79 4.14%	62 78.48%	35 44.30%	3 3.80%	0.16%	
肺がん検診	1,923	52 2.70%	42 80.77%	17 32.69%	2 3.85%	0.10%	
子宮がん検診	532	11 2.07%	8 72.73%	8 72.73%	0 0.00%	0.00%	
乳がん検診	629	48 7.63%	38 79.17%	7 14.58%	2 4.17%	0.32%	
甲状腺	629	2 0.32%	2 100.00%	2 100.00%	0 0.00%	0.00%	
H27ドック	大腸がん検診	1,882	140 7.44%	62 44.29%	36 25.71%	5 3.57%	0.27%
	胃がん検診	1,861	52 2.79%	39 75.00%	17 32.69%	7 13.46%	0.38%
	肺がん検診	1,884	66 3.50%	53 80.30%	28 42.42%	1 1.52%	0.05%
	子宮がん検診	525	2 0.38%	2 100.00%	1 50.00%	1 50.00%	0.19%
	乳がん検診	649	44 6.78%	34 77.27%	6 13.64%	0 0.00%	0.00%
	甲状腺	649	5 0.77%	5 100.00%	1 20.00%	0 0.00%	0.00%
	H25検診	乳がん検診	224	18 8.04%	17 94.44%	4 22.22%	2 11.11%
	甲状腺	224	6 2.68%	5 83.33%	2 33.33%	0 0.00%	0.00%
H26検診	乳がん検診	238	24 10.08%	21 87.50%	4 16.67%	2 8.33%	0.84%
	甲状腺	238	5 2.10%	4 80.00%	4 80.00%	0 0.00%	0.00%
H27検診	乳がん検診	203	16 7.88%	16 100.00%	2 12.50%	0 0.00%	0.00%
	甲状腺	203	1 0.49%	1 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	0.00%

## VIII 死亡症例検討会

第114回：平成27年 2月23日

症例1 91M A1329

臨床診断 慢性腎不全急性増悪  
尿毒症性アシドーシス

症例提示・病理報告

臨床研修医	角 谷 梨 花	医師
指導医	病理科	内ヶ崎新也 医師
	内 科	菅 秀 紀 医師



## 2014年 剖検記録要約

剖検番号	年齢	性別	臨床診断[科名]	病 理 診 断
1331	68歳	男性	肺炎 [内科]	サイトメガロウイルス感染性肺炎+成人呼吸切迫症候群 (左、340g：右、630g) 1. 胸水 (左、840ml：右、500ml)
1332	89歳	男性	腸腰筋膿瘍・敗血症性ショック [内科]	びまん性肺胞障害 (左、520g：右、595g) 1. 急性尿細管壊死、2. 腸腰筋血腫 (膿瘍は確認できず、血腫の器質化を認める)

# 荘内病院年譜

2015年（平成27年）

2015年 年譜

1月1日 元日

1月5日 仕事始め 院内激励巡視

鶴岡市永年勤続表彰（25年勤続）

本間 司 石川順子 佐藤 順 遠藤里美 佐藤美香 五十嵐 慶 横田丞美  
佐々木律子 白峯ゆみ

鶴岡市名刺交換会

1月15日 鶴岡地区歯科医師会新年会

1月16日 鶴岡地区医師会新年会

1月17日 鶴岡地区薬剤師会新年会

1月23日 山形県がん診療連携推進協議会

2月26日 新潟大学関連病院長会議

2月28日 庄内プロジェクト活動報告会

3月1日 こころの医療センター開院記念式典

3月2日 地域大学協働プログラム報告会（東北公益文科大学）

3月7日 第39回荘内看護専門学校卒業式

3月9日 山形大学医学部がん研究センター開所式

3月15日 みらい健康調査推進セミナー

3月18日 鶴岡市休日夜間診療協議会総会

3月20日 蔵王協議会総会

3月21日 レジナビフェア2015 in 東京

3月25日 山形大学医学部卒業式

3月31日 退職職員 医師 伊藤末志

看護師 鈴木ひとみ 板垣 淳 大江裕子 河田夏子 佐藤育子  
足達りつ子 佐藤 結 上野 恵 蛸井妙子 大滝由紀

薬剤師 堀 恵美

事務部 松浦秀宣

転出 栄養士1名、事務部6名

4月1日 辞令交付式

新規採用 研修医（管理型）1名、看護師28名、臨床検査技師2名、作業療法士1名、  
理学療法士3名、臨床工学技士2名

転入 栄養士1名、事務部6名

看護師院外派遣研修 昭和大学横浜市北部病院 1名

新潟市民病院 1名

4月4日 月曜会総会

4月9日 鶴岡准看護学院入学式

4月16日 第42回荘内看護専門学校入学式 20名入学

4月30日 新潟大学関連病院長会議

- 5月17日 荘内病院統合医療情報システム更新稼働  
 5月29日 自治体病院協議会総会（米沢）  
 6月9日 ふれあい看護体験 市内高校生が参加  
 6月12日 鶴岡市休日夜間診療協議会総会  
 6月26日 鶴岡市立荘内病院創立記念式典 創立102周年  
     表彰者  
     10年勤続医師 後藤真一  
     20年勤続感謝状贈呈 阿部暁子 伊藤佳子 亀井由佳 小山千聡 佐藤祥子  
                             佐藤節子 菅原留美 田村和江 本間洋子 渡部祐美子  
                             五十嵐昌美 伊藤奈穂 阿部裕子  
     みずばしょう創立10周年記念式典  
 7月9日 公立病院連盟東北支部総会（湯ノ浜 うしお荘にて開催）  
     ～10日  
 7月11日 山形県医療マネジメント学会（山形）  
 7月13日 山形県自治体病院開設者協議会  
 7月17日 鶴岡地区勤務医と医師会員懇談会  
 7月27日 医師公舎開所式：馬場町に新築  
 7月28日 第5回荘内病院オープンホスピタル（16名参加）  
 8月1日 杉の子保育所引っ越し（医師公舎1階に併設）  
 8月8日 山形県防災訓練（庄内空港）  
 8月22日 東北がんネットワーク（仙台）  
 9月4日 山形県病院協議会総会  
 9月9日 庄内プロジェクト講演会 石垣靖子先生講演  
 9月20日 荘内看護専門学校 看学祭  
 9月24日 荘内病院防災訓練  
 10月1日 鶴岡市新市制10周年記念式典  
 10月2日 新潟大学医学部学生会 荘内支部総会  
 10月14日 こころの医療センター開院祝賀会  
 10月18日 鶴岡市総合防災訓練（藤島地区）  
 10月28日 緩和ケアコンサート  
 11月1日 医療情報ネットワーク研究会（酒田）  
 11月6日 山形病院協議会総会（酒田）  
 11月13日 荘内看護専門学校 継灯式  
 11月14日 地震訓練  
 11月20日 日本病院会山形県支部総会  
 11月27日 五者懇談会  
 11月28日 緩和ケア市民公開講座  
 12月3日 山形ADR講演会  
 12月16日 鶴岡地区病院協議会  
 12月25日 鶴岡市総合計画審議会  
 12月29日 奨学生との懇談会 奨学生5名参加

## 鶴岡市立荘内病院医学雑誌について

名 称	鶴岡市立荘内病院医学雑誌	編集委員	委員長	正岡俊明
略 名	鶴岡荘内病院医誌		副委員長	高柳健史
欧文名称	The Medical Journal of Tsuruoka Municipal Shonai Hospital		委 員	古屋紀彦 和泉典子 草島宏平 石栗永里奈
欧文略称	Med.J.Shonai Hospital			遠藤広志 鈴木 郁
発 行 者	三科 武			押井あけみ 金子弘美
発 行 所	鶴岡市泉町4番20号 鶴岡市立荘内病院	発行部数	450部	
		発行回数	毎年1回	

## 鶴岡市立荘内病院医学雑誌投稿規定 (第25巻より)

## 本誌の内容および投稿資格について

員会が決定する。

- 1 本誌に掲載する論文は、鶴岡市立荘内病院の職員及びその関係者の投稿による。

以前当院の職員であった場合の投稿については、当院で経験された症例であり、他誌への掲載がない場合のみ投稿を許可する。

- 2 本誌は、医学に関する症例研究、学術研究、綜説、症例報告、集談会記録、この他病院活動、病院統計、病院管理運営に関する記録も収録する。
- 3 原著、綜説は未発表のものに限る。
- 4 他雑誌に全文収載された論文については、著書名、標題名、収載雑誌名、巻、号、ページ、年を記録し、抄録を載せる。
- 5 学会・集会等において、これらの記録誌に抄録のみ収載されたものについては、講演原稿あるいはこれを改稿して論文の体裁を整えたものあるいは抄録を収録して、発表した学会・集会名、発表年月日を併記する。

なお、4、5については、各部門の業績として責任者が一括して(様式は、別に定める)図書室司書に提出する。

- 6 論文は査読を行い、採否、掲載順序は編集委

## 論文の構成と書き方

- 7 原稿の形式は、標題、氏名(所属)、400字程度の要約、Key words(5個以内)、本文、文献、写真、図表とする。
- 8 原稿は、原則として20字×20行とし、邦文、横書き、平かな、当用漢字(専門用語は使用してよい)、現代かなづかいを用いる。  
原稿用紙は、20字×20行であれば、市販の用紙でもかまわない。  
ワープロを使用する場合は、20字×20行詰原稿とする。
- 9 本文の長さは、原著24枚、症例20枚程度を標準とする。(図表を除く)
- 10 論文には英文タイトルおよびローマ字による著者名を併記する。
- 11 外国語の固有名詞は、原語のまま用いる。ただし、日本語化しているものは片かなとする。  
薬品名は、商品名を用いず、正式名を用いる。
- 12 度量衡は、C.G.S.単位とし、算用数字を用い

る。ただし、専門的な分野については考慮する。

### 図・表・写真について

- 13 図表は、原稿本文とは別の用紙に黒インクで書き、表題や説明をつける。
- 14 写真等は、原則として白黒とし、挿入個所は原稿用紙の欄外に朱書きする。
- 15 カラー写真は、原則として認めないが、編集委員会で認めたものについては、カラー印刷とする。

### 文献について

- 16 文献は、出現順に番号を文章の右肩に附し、本文の終わりにまとめて記載する。

外国雑誌は Index Medicus、邦文雑誌は医学中央雑誌収載誌目録による略語を使用する。著者は、初出の2名までとし、以下は邦文では他、欧文では et alと記載する。標題名は完全に記載する。

〔原著の場合〕

著者名：論文題名、雑誌名 巻(号)：頁～頁、西暦年号

例：

#### 1) 邦文誌

宮田清典，高田 治，他：グルカゴンーインスリン療法にて減黄効果を得た胆汁うっ滞性黄疸の1例。最新医学 44(3):632-638,1989

#### 2) 欧文誌

McMahon BJ, Helminiak C, et al: Frequency of adverse reactions to hepatitis B vaccine in 43,618 persons. Am J Med 92:254-256,1992

〔著書(単行本)の場合〕

著者名：題名、監修者名(編者名)、書名、版、頁～頁、出版社、出版地、

西暦年号

例：

#### 1) 和書

内野治人，他：前白血病，中尾喜久監修，白血病のすべて，2版，p38-45，南江堂，東京，1981

#### 2) 洋書

Gardnar MB: Oncogenes and acute leukemia. Stass SA(ed), The Acute Leukemias, p327-359, Marcel Dekker, New York, 1987

### その他

- 17 原稿申込は年中受け付けるものとするが、2月末日までに提出されたものは、最新号への掲載とする。原稿受付は編集委員会が行い、その受付代表を図書室司書とする。

- 18 校正は、原則として著者が行う。

- 19 別刷は、20部まで病院の負担で行う。それ以上は、実費を著者の負担とする。(校正時に別刷の部数を指定すること)

- 20 本誌に掲載された論文の著作権は、荘内病院に帰属するものとし、出版権・複製権・公衆送信権の利用について許諾するものとする。

(平成11年4月1日 改正)

(平成20年4月1日 改正)

(平成25年12月1日 改正)

(平成26年12月1日 改正)

### 【学術活動業績の書き方】

#### —他誌に論文を掲載した場合—

論文タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科

著者名

掲載した雑誌名 巻(号)：頁～頁、西暦

要 約 (必要な場合)

#### —学会に発表した場合—

論文タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科

発表者

第〇回

学会名 (発表した日付 西暦年 月 日)

抄 録 (必要な場合)

－院外で講演を行なった場合－

講演タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科 講演者

講演会名 (講演会日 西暦年 月 日)

－院内での各種研修会を行なった場合－

各部署ごとにまとめて、前巻にならって提出して下さい。

上記の様式で書き、各部門の責任者がまとめてから提出してください。

## 荘内病院医学雑誌編集委員会要綱

### (目 的)

第1条 この要綱は荘内病院医学雑誌を編集するために設置する編集委員会（以下「委員会」という）について必要な事項を定めることを目的とする。

### (所 轄 事 項)

第2条 委員会は、病院が発行する医学雑誌の編集および関係機関への配布を所轄する。この医学雑誌はとりあえず年1回発行し、将来は複数回発行を目指すものとする。

### (組 織)

第3条 委員会は委員長1名、副委員長1名および若干名の委員より構成される。

2 委員は病院職員のなかから院長が委嘱する。

3 委員長および副委員長は委員の互選により決定する。

4 委員の任期は2年とし、欠員が生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。任期終了後、再度委嘱されることを妨げない。

5 次期委員の推薦は、編集委員の任期終了前に、病院管理者と委員との合同会議で行なうものとし、被推薦者の同意を得るものとする。

### (顧 問)

第4条 委員会の円滑な運営を図るため、次の顧問を置く。

- (1) 副院長
- (2) 診療部長
- (3) 事務部長
- (4) 看護部長
- (5) 教育研究研修委員長及び副委員長

### (支 援 組 織)

第5条 委員会において困難な問題が生じ、他の

病院職員の支援を必要とするような場合は、医長会議および科長会議に諮るものとする。これらの機関はしかるべき援助をしなければならない。

### (会 議)

第6条 委員長は必要に応じて委員会を召集し会議を主催する。

2 副委員長は委員長を補佐し、委員長が不在のときはその職務を代行する。

3 委員会は必要に応じ、上記以外の職員または知識経験者の出席を求めて意見を聞くことができる。

### (投 稿 等)

第7条 職員は病院の使命を果たすために必要な研讃に努めるとともに、委員会の業務に協力するものとする。

2 投稿規定は別に定める。

### (庶 務)

第8条 委員会の庶務は事務部において処理する。

### 付 則

この要綱は、1989年6月より適用する。

この要綱は、2001年10月1日に改定、施行する。

この要綱は、2003年7月1日に改定、施行する。

## 編集後記

昨年今頃、「来年こそは年内発行を」と意気込んでいたものの、やっぱりこの時期になってしまいました。荘内病院医学雑誌27巻（2016年度号）がやっと発刊にこぎつけました。今号は5編の学術論文を投稿いただきました。投稿していただいた方、査読委員の皆様には厚くお礼申し上げます。

今号特集は「当院のリハビリ医療の現状」を取り上げました。病院医療は様々な面でどんどん変遷しています。私の領域（呼吸器外科）で考えても10年前と今では診断・治療面で様変わりしていますが、術前術後の過ごし方も随分変化したように思います。一番の違いはリハビリの関与でしょうか？ 以前は、術前のトレーニングや術後リハなどはほとんどが看護師がメインで行われていました。現在では、PTの介入により患者個人に合った術前の呼吸訓練や運動指導、術後の呼吸機能回復訓練が行われ、術後の生活指導などもされています。嚥下や発声が悪くても担当技師による評価訓練が入り、主治医自らが生半可な知識で独自に行っていた時代とは隔世の感があります。最も大事な点は、“きちっとしたエビデンスに基づき、患者個人に合った手法が取られる”ことでしょうか？リハビリ医療は、今後ますます進歩し病院医療における役割が広がっていくことでしょう。皆様に特集を読んでいただき、当院リハビリ医療の“顔”を知っていただければ、と思います。忙しい中、原稿を執筆いただいた各担当部門の方々、有り難うございました。

最後ですが、いつも厚い雑誌の隅々まで気を払ってコーディネートしてくれる阿部奈美委員にもお礼申し上げます。

2017年2月22日 正岡俊明



鶴岡市立荘内病院医学雑誌

第 27 卷

2017年 3月21日印刷  
2017年 3月21日発行  
発行者 三 科 武  
編集者 鶴岡市立荘内病院医学雑誌編集委員会  
発行所 鶴岡市立病院内  
鶴岡市立荘内病院医学雑誌編集委員会  
〒997 - 8515 鶴岡市泉町4番20号  
電 話 0235 (26) 5111  
F A X 0235 (26) 5110  
URL = <http://www.shonai-hos.jp>  
e-mail : [tosyo@shonai-hos.jp](mailto:tosyo@shonai-hos.jp)

印刷人 黒 井 徳 夫  
印刷所 J A 印 刷 山 形  
〒997-0004  
鶴岡市本田字八百地275番地  
電 話 0235 (24) 0690  
FAX 0235 (24) 0637